

平成23事業年度

事業報告書

日本中央競馬会

I 業務の実施状況

1. 平成 23 年度の業務の実施状況

(1) 競馬の開催等

① 競馬の開催状況

・開催回数 36 回 ・開催日数 288 日

(内訳)

競馬場	開催回数	開催日数	競馬場	開催回数	開催日数
札幌競馬場	2 回	16 日	東京競馬場	5 回	41 日
函館競馬場	2 回	16 日	中京競馬場	0 回	0 日
福島競馬場	0 回	0 日	京都競馬場	6 回	52 日
新潟競馬場	5 回	44 日	阪神競馬場	6 回	39 日
中山競馬場	5 回	36 日	小倉競馬場	5 回	44 日

② 発売金及び開催競馬場入場人員

発 売 金	2 兆 2,990 億 6,382 万 1,000 円
入場人員	615 万 1,105 名

③ 国庫納付金

第 1 国庫納付金	2,293 億 5,780 万 5,360 円
第 2 国庫納付金	※0 円

④ 競馬の開催に関する主な業績項目の数値

項 目	数 式	当該年度数値	
競馬開催計画 達成率	開催回数	開催実施回数／開催計画回数	100%
	開催日数	開催実施日数／開催計画日数	100%
職員一人当り の効率	対売上収入	売得金額／職員数	1,265,073千円
	対入場人員	入場人員数／職員数	3,393人
対売上収益率	剰余金／売得金額	※－	

※平成 23 年度は剰余金は発生せず

(2) 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録

登録の種類	〔J R A所属〕			〔その他〕※	
	登録の数	取消の数	本年度末数	国際関係	地方関係
馬主の登録	82名	115名	2,288名	9(5)名	112名
競走馬登録	5,264頭	5,320頭	7,933頭	16(16)頭	195頭
服色の登録	101件	130件	1,952件	9(5)件	—

- ※ i 「国際関係」： 国際交流競走に係わる登録の数（カッコ内は取消の数）
ii 「地方関係」： 地方競馬との指定交流競走に係わる登録及び取消の数

(3) 調教師及び騎手の免許

免許の種類	〔J R A所属〕			〔その他〕※		
	免許の数	取消の数	本年度末数	短期	国際関係	地方関係
調教師の免許	218名	8名	210名	—	13名	161名
騎手の免許	148名	7名	141名	15名	21名	162名

- ※ i 「免許の数」： 3月1日付免許者数
ii 「取消の数」： 免許期間を満了せずに年度途中で取り消した者の数
iii 「短期」： 臨時試験による短期騎手免許者数（延人数）
iv 「国際関係」： 国際交流競走・国際騎手招待競走に係わる免許者数（延人数）
v 「地方関係」： 地方競馬との指定交流競走に係わる免許者数（延人数）

(4) 競走馬の育成

日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、平成 22 年に購入したサラブレッド 2 歳馬 80 頭の育成を行うとともに、夏以降は 1 歳馬 79 頭を購入し育成を行いました。

（平成 24 年売却予定）

また、日高育成牧場に繋養しているサラブレッド繁殖牝馬及びその産駒（当歳 8 頭・1 歳 6 頭・2 歳 7 頭）の生産育成に関する研究を行いました。

(5) 騎手の養成・訓練

競馬学校において騎手の養成を行い、7 名が卒業しました。平成 23 事業年度末現在の在校生数は 19 名となっています。

(6) 日本中央競馬会法第 19 条第 2 項第 4 号に掲げる業務

上記（1）～（5）の業務のほか、競馬の健全な発展を図るため必要な業務を行いました。そのうち、特別振興資金を使用して、競馬振興事業を実施しました。

合計金額 2,464,131,065 円

(7) 畜産振興事業

特別振興資金を使用して、畜産振興事業を実施しました。

合計金額 1,774,096,631 円

(8) 払戻金への上乗せ

特別振興資金を使用して、1号給付金及び2号給付金を払戻金に上乗せしました。

1号給付金 2,852,737,460 円

2号給付金 1,829,426,970 円

合計金額 4,682,164,430 円

(9) 競走馬生産振興業務への交付

地方競馬全国協会が行う「競走馬生産振興業務」に対して、特別振興資金を使用して、交付金を交付しました。

合計金額 500,000,000 円

(10) 認定競馬活性化計画補助業務への交付

地方競馬全国協会が行う「認定競馬活性化計画補助業務」に対して、特別振興資金を使用して、交付金を交付しました。

合計金額 576,968,000 円

(11) 借入金、財政投融资資金及び国庫補助金等による資金調達の状況

該当ありません。

2. 前年度までにおける業務の実施状況

(1) 競馬の開催等

① 競馬の開催状況

事業年度	平成 20 年		平成 21 年		平成 22 年	
	開催回数	開催日数	開催回数	開催日数	開催回数	開催日数
札幌競馬場	2 回	16 日	2 回	24 日	2 回	16 日
函館競馬場	2 回	16 日	0 回	0 日	2 回	16 日
福島競馬場	3 回	24 日	3 回	24 日	3 回	24 日
新潟競馬場	3 回	24 日	4 回	30 日	3 回	24 日
中山競馬場	5 回	40 日	5 回	40 日	5 回	40 日
東京競馬場	5 回	40 日	5 回	40 日	5 回	40 日
中京競馬場	3 回	24 日	4 回	26 日	2 回	16 日
京都競馬場	5 回	40 日	5 回	40 日	6 回	48 日
阪神競馬場	5 回	40 日	5 回	40 日	5 回	40 日
小倉競馬場	3 回	24 日	3 回	24 日	3 回	24 日
合 計	36 回	288 日	36 回	288 日	36 回	288 日

② 発売金及び開催競馬場入場人員

事業年度	発 売 金	入場人員
平成 20 年	2,756,297,660,000 円	7,389,749 名
平成 21 年	2,598,259,461,000 円	7,316,360 名
平成 22 年	2,435,626,529,000 円	6,739,580 名

③ 国庫納付金

事業年度	第 1 国庫納付金	第 2 国庫納付金
平成 20 年	275,020,099,040 円	9,935,184,626 円
平成 21 年	259,007,350,000 円	7,729,368,917 円
平成 22 年	242,756,559,470 円	2,018,960,817 円

④ 競馬の開催に関する主な業績項目の数値

項 目		平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年
競馬開催計画 達成率	開催回数	100%	100%	100%
	開催日数	100%	100%	100%
職員一人当り の効率	対売上収入	1,477,808 千円	1,409,947 千円	1,338,977 千円
	対入場人員	3,971 人	3,983 人	3,717 人
対売上収益率		0.72%	0.60%	0.17%

(2) 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録

① 馬主の登録

事業年度	〔JRA所属〕		当該年度末数	〔その他〕※	
	登録の数	取消の数		国際関係	地方関係
平成 20 年	106 名	109 名	2,343 名	13(4) 名	154 名
平成 21 年	101 名	105 名	2,339 名	11(9) 名	96 名
平成 22 年	89 名	107 名	2,321 名	15(9) 名	121 名

② 競走馬登録

事業年度	〔JRA所属〕		当該年度末数	〔その他〕※	
	登録の数	取消の数		国際関係	地方関係
平成 20 年	5,293 頭	5,323 頭	7,969 頭	16(16) 頭	257 頭
平成 21 年	5,268 頭	5,209 頭	8,028 頭	14(14) 頭	200 頭
平成 22 年	5,204 頭	5,243 頭	7,989 頭	18(18) 頭	253 頭

③ 服色の登録

事業年度	〔JRA所属〕		当該年度末数	〔その他〕※
	登録の数	取消の数		国際関係
平成 20 年	133 件	126 件	2,028 件	13(4) 件
平成 21 年	86 件	97 件	2,017 件	11(9) 件
平成 22 年	80 件	116 件	1,981 件	15(9) 件

- ※ i 「国際関係」： 国際交流競走に係わる登録の数（カッコ内は取消の数）
ii 「地方関係」： 地方競馬との指定交流競走に係わる登録及び取消の数

(3) 調教師及び騎手の免許

① 調教師の免許

事業年度	〔J R A所属〕		当該年度末数	〔その他〕※	
	免許の数	取消の数		国際関係	地方関係
平成 20 年	225 名	4 名	221 名	15 名	221 名
平成 21 年	219 名	5 名	214 名	12 名	192 名
平成 22 年	221 名	3 名	218 名	17 名	213 名

② 騎手の免許

事業年度	〔J R A所属〕			〔その他〕※		
	免許の数	取消の数	当該年度末数	短期	国際関係	地方関係
平成 20 年	165 名	4 名	161 名	7 名	21 名	212 名
平成 21 年	165 名	8 名	157 名	8 名	19 名	183 名
平成 22 年	156 名	14 名	142 名	15 名	20 名	213 名

- ※ i 「免許の数」 : 3月1日付免許者数
 ii 「取消の数」 : 免許期間を満了せずに年度途中で取り消した者の数
 iii 「短期」 : 臨時試験による短期騎手免許者数 (延人数)
 iv 「国際関係」 : 国際交流競走・国際騎手招待競走に係わる免許者数 (延人数)
 v 「地方関係」 : 地方競馬との指定交流競走に係わる免許者数 (延人数)

(4) 競走馬の育成

事業年度	育成頭数	(内訳)	2歳馬	1歳馬
			平成 20 年	160 頭
平成 21 年	160 頭	80 頭	80 頭	
平成 22 年	160 頭	80 頭	80 頭	

(5) 騎手の養成・訓練

事業年度	競馬学校卒業者数	当該年度末在校生数
平成 20 年	3 名	22 名
平成 21 年	5 名	20 名
平成 22 年	6 名	21 名

(6) 日本中央競馬会法第19条第2項第4号に掲げる業務

① 平成20年、平成21年及び平成22年の各事業年度において、上記(1)～(5)の業務のほか、競馬の健全な発展を図るため必要な業務を実施しました。

② 競馬振興事業

事業年度	金額
平成20年	5,093,990,000円
平成21年	2,748,658,810円
平成22年	1,232,374,845円

(7) 畜産振興事業

事業年度	金額
平成20年	4,465,465,803円
平成21年	1,933,982,095円
平成22年	1,905,077,775円

(8) 払戻金への上乗せ

事業年度	金額
平成20年	6,196,260,630円
平成21年	5,791,104,900円
平成22年	4,365,617,110円

(内訳)

1号給付金	2号給付金
5,042,858,750円	1,153,401,880円
4,053,665,040円	1,737,439,860円
2,765,687,670円	1,599,929,440円

(9) 競走馬生産振興業務への交付

事業年度	金額
平成20年	1,425,600,000円
平成21年	2,998,000,000円
平成22年	715,000,000円

(10) 認定競馬活性化計画補助業務への交付

事業年度	金額
平成 20 年	603,868,000 円
平成 21 年	99,840,000 円
平成 22 年	882,419,000 円

(11) 借入金、財政投融资資金及び国庫補助金等による資金調達の状況

平成 20 年、平成 21 年及び平成 22 年の各事業年度について、該当ありません。

Ⅱ 日本中央競馬会の概要

1. 業務の内容

日本中央競馬会は、競馬の健全な発展を図って馬の改良増殖その他畜産の振興に寄与することを目的とし、その目的を達成するため次の業務を行うことが法定されています。

(1) 業務内容

- ① 中央競馬の開催
- ② 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録
- ③ 調教師及び騎手の免許
- ④ 競走馬の育成
- ⑤ 騎手の養成・訓練
- ⑥ その他競馬の健全な発展を図るため必要な業務
- ⑦ 畜産振興事業等について助成することを業務とする法人に対し、当該助成に必要な資金の全部又は一部を交付する業務
- ⑧ 競馬法附則第5条第1項第1号及び第2号に規定する当該勝馬投票の的中者に対し、給付金を交付する業務
- ⑨ 地方競馬全国協会が行う競走馬生産振興業務に対し、交付金を交付する業務（平成24事業年度までの間）
- ⑩ 地方競馬全国協会が行う認定競馬活性化計画補助業務に対し、交付金を交付する業務（平成24事業年度までの間）

(2) 根拠規定

日本中央競馬会法（昭和29年7月1日法律第205号）第19条
競馬法（昭和23年7月13日法律第158号）附則第5条及び第8条

2. 各事務所の所在地

名 称	郵便番号	住 所	電話番号
本 部	105-0003	港区西新橋1丁目1番19号	03-3591-5251
六本木事務所	106-8401	港区六本木6丁目11番1号	03-3591-5251
馬事公苑	158-8523	世田谷区上用賀2丁目1番1号	03-3429-5101
競馬学校	270-1431	白井市根835の1番地	047-491-0333
競走馬総合研究所	320-0856	宇都宮市砥上町321番4号	028-647-0650
日高育成牧場	057-0171	北海道浦河郡浦河町字西舎535番地の13	0146-28-1211
宮崎育成牧場	880-0036	宮崎市花ヶ島町大原2347番地	0985-25-3448
栗東トレーニング ・センター	520-3085	栗東市御園1028番地	077-558-0101
美浦トレーニング ・センター	300-0493	茨城県稲敷郡美浦村大字美駒2500番地の2	029-885-2111
札幌競馬場	060-0016	札幌市中央区北16条西16丁目1番1号	011-726-0461
函館競馬場	042-8585	函館市駒場町12番2号	0138-53-1021
福島競馬場	960-8114	福島市松浪町9番23号	024-534-2121
新潟競馬場	950-3301	新潟市北区笹山3490番地	025-259-3141
中山競馬場	273-0037	船橋市古作1丁目1番1号	047-334-2222
東京競馬場	183-0024	府中市日吉町1番地の1	042-363-3141
中京競馬場	470-1132	豊明市間米町敷田1225番地	052-623-2001
京都競馬場	612-8265	京都市伏見区葭島渡場島町32番地	075-631-3131
阪神競馬場	665-0053	宝塚市駒の町1番1号	0798-51-7151
小倉競馬場	802-0841	北九州市小倉南区北方4丁目5番1号	093-962-3236

3. 資本金の総額及び政府の出資額並びにこれらの増減

資本金の総額	政府の出資額	前期末比増減
4,924,129,000円	全額政府出資	0

4. 役員の定数並びに各役員の氏名、役職、任期及び経歴等（平成 23 年度末現在）

（1）役員の定数

理事長 1 人、副理事長 1 人、理事 10 人以内及び監事 3 人以内

（2）各役員の氏名、役職、任期、経歴

役 職	氏 名	任 期	経 歴
理 事 長	土川 健之	平成 23 年 9 月 12 日～26 年 9 月 11 日	日本中央競馬会副理事長
副理事長	畑山 光伸	平成 23 年 3 月 1 日～26 年 2 月 28 日	日本中央競馬会常務理事
常務理事	後藤 正幸	平成 23 年 3 月 1 日～25 年 2 月 28 日	日本中央競馬会理事
理 事	水野 豊香	平成 23 年 3 月 1 日～25 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 美浦トレーニングセンター場長
理 事	小島 薫	平成 23 年 3 月 1 日～25 年 2 月 28 日	日本中央競馬会総務部長
理 事	山川 雅典	平成 23 年 3 月 1 日～25 年 2 月 28 日	農林水産省 関東森林管理局長
理 事	益満 宏行	平成 23 年 3 月 1 日～25 年 2 月 28 日	日本中央競馬会競走部長
理 事	星野 年彦	平成 23 年 3 月 1 日～25 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 東京競馬場長
理 事	小林善一郎	平成 23 年 3 月 1 日～25 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 栗東トレーニングセンター場長
理 事	鈴木 良治	平成 23 年 3 月 1 日～25 年 2 月 28 日	日本中央競馬会経理部長
監 事	大平 俊明	平成 23 年 10 月 1 日～25 年 9 月 30 日	日本中央競馬会人事部長
監 事 (非常勤)	堀内 俊一	平成 22 年 9 月 16 日～24 年 9 月 15 日	弁護士

（3）役員の異動

- ① 2 月 28 日付けで石原葵副理事長、長岡壽男常務理事、齊藤茂理事、金田裕之理事、林建之理事が退任し、翌 3 月 1 日付けで畑山光伸前常務理事が副理事長、後藤正幸前理事が常務理事、星野年彦前東京競馬場長、小林善一郎前栗東トレーニング・センター場長、鈴木良治前経理部長が理事にそれぞれ任命されました。
- ② 3 月 1 日付けで水野豊香理事、小島薫理事、山川雅典理事、益満宏行理事が再任されました。
- ③ 9 月 12 日付けで土川健之理事長が再任されました。
- ④ 9 月 30 日付けで矢嶋仁監事が退任し、翌 10 月 1 日付けで大平俊明前人事部長が監

事に任命されました。

5. 職員の定数及びその増減（平成 23 年度末現在）

職員の定数	前期末比増減
1, 8 1 3 人	0

6. 日本中央競馬会の沿革

昭和 2 9 年	○ 日本中央競馬会の設立（9 月 16 日） 昭和 23 年に当時の「日本競馬会」の業務を継承したいわゆる「国営競馬」を引き継いで、競馬法（昭和 23 年 7 月 13 日法律第 158 号）により競馬を行う特殊法人として、日本中央競馬会法（昭和 29 年 7 月 1 日法律第 205 号）により設立
平成 3 年	○ 競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律の施行 ① 馬主の登録制度並びに調教師及び騎手の免許制度の改善 ② 馬主登録等がより公正に行われるための審査会の設置 ③ 日本中央競馬会の剰余金を有効に活用するための特別振興資金及び特別給付資金の新設 ④ 競馬振興事業及び畜産振興事業の新設 ⑤ 単勝式及び複勝式の勝馬投票の的中者に対し、特別給付金を交付する特別給付業務の新設
平成 1 7 年	○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 ① 中央競馬の実施に関する事務を政令で定めるところにより都道府県等に委託することができることを新たに規定 ② 勝馬投票券の購入等の制限の対象から成年である学生生徒が除外 ③ 単勝式及び複勝式の払戻率を改正（特別給付業務は平成 16 年末までの分をもって終了） ○ 「行政改革の重要方針」の閣議決定（12 月 24 日） ① 現行の組織形態（特殊法人）を継続 ② 競馬の公正・中立性の確保上支障のない範囲において主務大臣の関与・規制の緩和 ③ 競争入札への移行の促進、子会社等の統合、外部監査の導入等を図ること
平成 1 9 年	○ 競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律の施行 ① 経営委員会の設置 ② 農林水産大臣の関与及び規制の緩和（規約についての関与の緩和、役員任免等に関して大臣認可を不要とすること等） ③ 1 号給付金及び 2 号給付金を交付する業務の新設

7. 根拠法

日本中央競馬会法

8. 主務大臣 農林水産大臣

9. 経営委員会の概要（平成 23 年度末現在）

経営委員会は、日本中央競馬会法第 8 条の 2 の規定に基づいて設置され、農林水産大臣が任命する委員 6 人及び理事長の 7 人により構成されています。

（1）各委員の氏名、任期及び職名等

氏 名	任 期	職 名 等
岩崎 徹	平成 22 年 9 月 1 日～25 年 8 月 31 日	札幌大学経済学部教授
奥田 碩 (委員長)	平成 22 年 9 月 1 日～25 年 8 月 31 日	トヨタ自動車(株)相談役
住田 裕子	平成 22 年 9 月 1 日～25 年 8 月 31 日	弁護士
高橋 伸子	平成 22 年 9 月 1 日～25 年 8 月 31 日	生活経済ジャーナリスト
牧 太郎	平成 22 年 9 月 1 日～25 年 8 月 31 日	(株)毎日新聞社専門編集委員
和田 紀夫 (委員長代理)	平成 22 年 9 月 1 日～25 年 8 月 31 日	日本電信電話(株)取締役会長

（2）経営委員会の開催概要

- ① 第 1 回経営委員会（1 月 19 日）
 - ・ 札幌競馬場スタンド等改築工事について（案）の議決 等
- ② 第 2 回経営委員会（2 月 15 日）
 - ・ 副理事長及び理事の任命（案）の同意
 - ・ 平成 23 年度予算実施計画（案）の議決 等
- ③ 第 3 回経営委員会（3 月 10 日）
 - ・ 平成 22 年度決算（案）の議決 等
- ④ 第 4 回経営委員会（4 月 21 日）
 - ・ 平成 22 年度経営目標の達成状況に係る自己評価について 等
- ⑤ 第 5 回経営委員会（5 月 25 日）
 - ・ 平成 22 年度経営目標の達成状況の評価 等
- ⑥ 第 6 回経営委員会（6 月 29 日）
 - ・ 平成 23 年度事業計画等の一部変更について（案）の議決

- ・ 平成 23 年度夏季期間の 1 号給付金の交付について（案）の議決 等
- ⑦ 第 7 回経営委員会（8 月 2 日）
 - ・ 第 4 回東京競馬第 3 日における 1 号給付金の交付について（案）の議決 等
- ⑧ 第 8 回経営委員会（9 月 13 日）
 - ・ 川崎競馬場（神奈川県川崎競馬組合）における中央競馬の場外発売について（案）の議決
 - ・ ウインズ横浜 A 館及びウインズ名古屋の改築工事について（案）の議決 等
- ⑨ 第 9 回経営委員会（10 月 12 日）
 - ・ 平成 24 年度事業計画（案）（「競馬番組の充実」に係る部分）の議決
 - ・ ウインズ新宿改築工事について（案）の議決 等
- ⑩ 第 10 回経営委員会（11 月 21 日）
 - ・ 平成 24 年度経営目標（案）の決定
 - ・ 平成 24 年度事業計画（案）の議決
 - ・ 平成 24 年度収支予算（案）の議決
 - ・ 平成 24 年度 1 号給付金及び 2 号給付金の交付について（案）の議決 等
- ⑪ 第 11 回経営委員会（12 月 14 日）
 - ・ 浦和競馬場（埼玉県浦和競馬組合）における中央競馬の場外発売について（案）の議決 等

10. 運営審議会の概要（平成 23 年度末現在）

日本中央競馬会法第 16 条の規定により、日本中央競馬会の業務の執行に関する重要事項を調査審議するため、理事長が農林水産大臣の認可を受けて任命する者により構成される運営審議会が設置されています。

（1）各委員の氏名、任期及び職名等

氏 名	任 期	職 名 等
荒木 正博	平成 23 年 9 月 16 日～25 年 9 月 15 日	日高軽種馬農業協同組合 代表理事組合長
井口 保子	平成 23 年 9 月 16 日～25 年 9 月 15 日	競馬ジャーナリスト
尾形 充弘	平成 23 年 9 月 16 日～25 年 9 月 15 日	(社)日本調教師会 会長
笥 正三	平成 23 年 9 月 16 日～25 年 9 月 15 日	元(財)たばこ総合研究センター 理事長
国本 哲秀	平成 23 年 9 月 16 日～25 年 9 月 15 日	(社)東京馬主協会 会長

近藤 利一	平成 23 年 9 月 16 日～25 年 9 月 15 日	(社)阪神馬主協会 会長
斎藤 由香	平成 23 年 9 月 16 日～25 年 9 月 15 日	エッセイスト
高岡 和弘	平成 23 年 9 月 16 日～25 年 9 月 15 日	読売新聞東京本社事業局 総務
武 豊	平成 23 年 9 月 16 日～25 年 9 月 15 日	日本騎手クラブ 会長
松本 好雄	平成 23 年 9 月 16 日～25 年 9 月 15 日	日本馬主協会連合会 会長理事

(2) 運営審議会の開催概要

- ① 第 1 回運営審議会（2 月 10 日）
 - ・ 日本中央競馬会の競馬の施行等に関する規約の一部改正（案）について
 - ・ 日本中央競馬会競馬施行規程の一部改正（案）について 等
- ② 第 2 回運営審議会（3 月 9 日）
 - ・ 平成 22 年度決算（案）について
- ③ 第 3 回運営審議会（6 月 24 日）
 - ・ 平成 23 年度事業計画の一部変更について（案） 等
- ④ 第 4 回運営審議会（10 月 11 日）
 - ・ 平成 24 年度事業計画（案）（「競馬番組の充実」に係る部分）について
- ⑤ 第 5 回運営審議会（11 月 17 日）
 - ・ 平成 24 年度事業計画（案）について
 - ・ 平成 24 年度収支予算（案）について

(3) 委員の異動

- ① 9 月 15 日付けで瓜林裕治委員、外山みどり委員が退任し、翌 9 月 16 日付けで斎藤由香氏、高岡和弘氏が委員に任命されました。
- ② 9 月 16 日付けで荒木正博委員、井口保子委員、尾形充弘委員、笈正三委員、国本哲秀委員、近藤利一委員、武豊委員、松本好雄委員が再任されました。

1 1. 公正審査会議の概要（平成 23 年度末現在）

日本中央競馬会法第 20 条の規定に基づき、馬主の登録・抹消、調教師及び騎手の免許・取消し、行政不服審査法による異議申立てに対する決定などについて意見を聴取するため、理事長が任命した公正審査委員による公正審査会議を開催しました。

(1) 各委員の氏名、任期及び経歴

氏名	任期	経歴
岡本 金彌	平成23年9月7日～25年9月6日	日本中央競馬会 副理事長
頃安 健司	平成23年9月7日～25年9月6日	大阪高等検察庁 検事長
酒井 啓子	平成23年9月7日～25年9月6日	東京外国語大学 総合国際学研究院教授
那部 吉正	平成23年9月7日～25年9月6日	株産経新聞社 取締役
野田 哲也	平成23年9月7日～25年9月6日	内閣法制局第四部長
林 則清	平成23年9月7日～25年9月6日	警察庁刑事局長
福沢 恵子	平成23年9月7日～25年9月6日	(公財)日本女性学習財団理事

(2) 公正審査会議の開催概要

- ① 第1回公正審査会議（1月21日）
 - ・ 相続馬限定の馬主登録について（1件）
 - ・ 組合馬主の組合員追加について（2件）
 - ・ 競走ルールの変更について
- ② 第2回公正審査会議（2月9日）
 - ・ 平成23年度調教師・騎手免許試験について
 - ・ 相続馬限定の馬主登録について（1件）
 - ・ 法人馬主の代表者死亡に伴う限定的代表者変更について（1件）
- ③ 第3回公正審査会議（4月7日）
 - ・ 馬主登録審査基準関連事項の新規設定について
 - ・ 平成23年度第1回馬主登録に関する審査について（17件）
- ④ 第4回公正審査会議（5月20日）
 - ・ 交流競走について
- ⑤ 第5回公正審査会議（6月3日）
 - ・ 相続馬限定の馬主登録について（1件）
 - ・ 組合馬主の組合員の追加について（1件）
 - ・ 組合馬主の組合員の変更について（1件）
 - ・ 検量室の業務について
- ⑥ 第6回公正審査会議（7月8日）
 - ・ 平成23年度第2回馬主登録に関する審査について（32件）

- ・ 組合馬主の組合員の追加について（1件）
 - ・ 法人馬主の限定的代表者の解除について（1件）
 - ・ 相続馬限定の馬主登録について（1件）
 - ・ 騎手免許試験における視力に関する取扱いについて
- ⑦ 第7回公正審査会議（8月18日）
- ・ 調教師の免許について
- ⑧ 第8回公正審査会議（9月21日）
- ・ 調教師の免許について
 - ・ 法人馬主の代表者変更について（2件）
 - ・ 組合馬主の組合員の追加について（1件）
 - ・ 個人馬主の馬主登録取消しの猶予について（1件）
- ⑨ 第9回公正審査会議（10月21日）
- ・ 馬主登録取消しのガイドラインの改正について
 - ・ 相続馬限定の馬主登録について（1件）
 - ・ 法人馬主の限定的代表者変更の解除について（1件）
- ⑩ 第10回公正審査会議（11月11日）
- ・ 平成23年度第3回馬主登録に関する審査について（25件）
 - ・ 相続馬限定の馬主登録について（1件）
 - ・ 法人馬主の代表者変更について（1件）
- ⑪ 第11回公正審査会議（12月7日）
- ・ 相続馬限定の馬主登録について（2件）
 - ・ 平成24年度新規調教師免許試験について

（3）委員の異動

9月7日付けで岡本金彌委員、頃安健司委員、酒井啓子委員、那部吉正委員、野田哲也委員、林則清委員、福沢恵子委員の7名全員が再任されました。

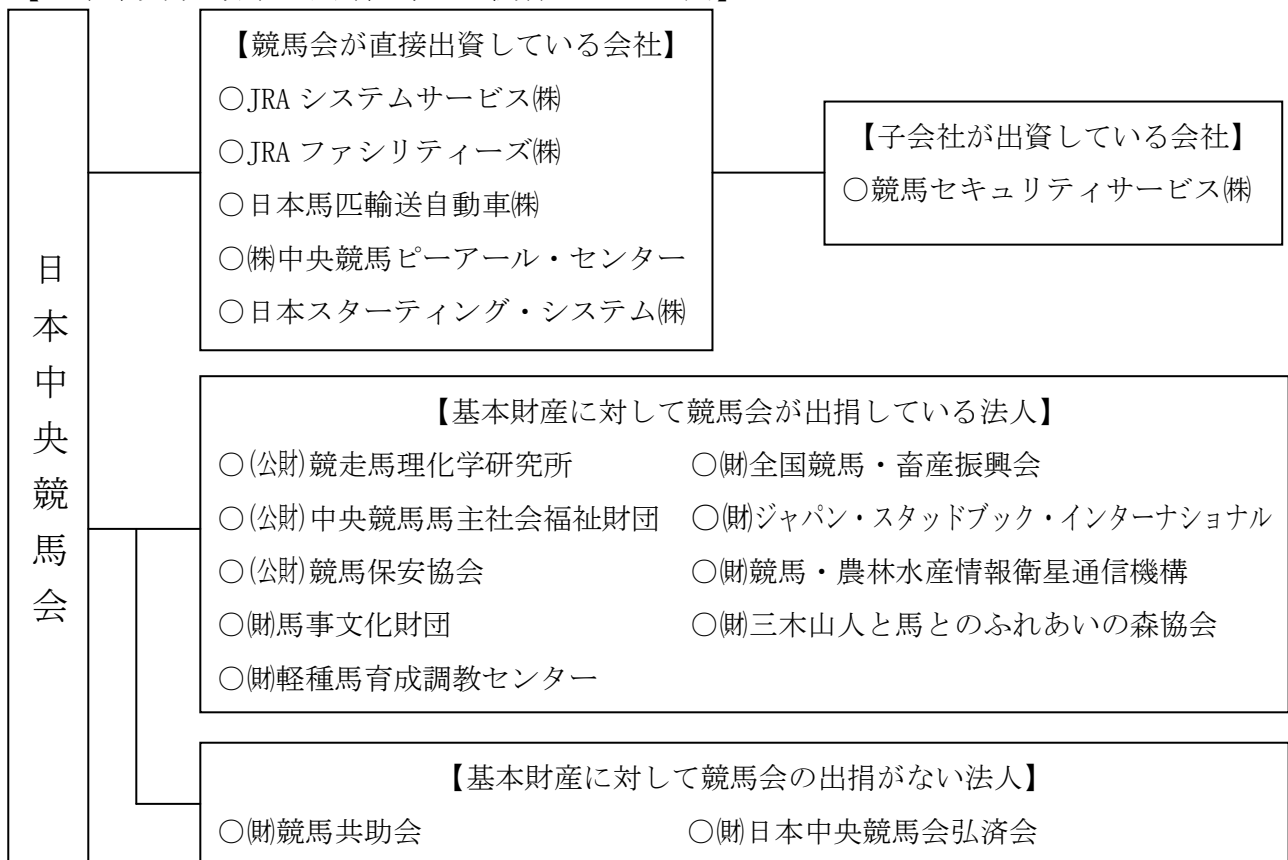
Ⅲ 子会社等に関する事項（平成 23 年度末現在）

1. 子会社等の状況

日本中央競馬会法施行規則（昭和 29 年農林省令第 56 号）第 8 条の 2 第 3 号に定める子会社等の状況は以下のとおりです。

- (1) 子会社：JRA システムサービス(株)、JRA ファシリティーズ(株)、日本馬匹輸送自動車(株)、(株)中央競馬ピーアール・センター、日本スターティング・システム(株)、競馬セキュリティサービス(株)
- (2) 関連会社：なし
- (3) 特例財団法人等：(公財)競走馬理化学研究所、(公財)中央競馬馬主社会福祉財団、(公財)競馬保安協会、(財)馬事文化財団、(財)軽種馬育成調教センター、(財)全国競馬・畜産振興会、(財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル、(財)競馬・農林水産情報衛星通信機構、(財)三木山人と馬とのふれあいの森協会、(財)競馬共助会、(財)日本中央競馬会弘済会

【日本中央競馬会と子会社等との関係を示した図】



2. 子会社の名称、住所、資本金、事業内容、役員数、代表者の氏名、従業員数、日本中央競馬会の所有する議決権の議決権の総数に対する割合及び日本中央競馬会との関係

子会社の名称・住所 代表者の氏名 資本金 競馬会の議決権所有割合	主な事業内容	売上高 当期純利益 利益剰余金 (H22 決算額)	役員数 (うち常勤) 従業員数	競馬会との関係 ア 売上高中の競馬会との取引額 (H22 実績) イ 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
JRAシステムサービス㈱ 【平成19年10月設立】 東京都江東区永代1-14-5 代表取締役社長 齊藤 茂 500,000千円 54.5% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・トータリゼータシステム及び各種情報処理システム並びにそれらのシステムに関連する機器の運用及び保守整備 ・競馬に関する情報の提供 ・各種機器・車両及び競馬用諸設備の売買及び賃貸並びにそれらに付帯する物品の売買及び賃貸 	(百万円) 25,329 985 6,009	(人) 14 (12) 505	ア 20,668百万円 イ ・トータリゼータシステム等の運用保守管理業務 ・トータリゼータシステム等のソフトウェア開発業務 ・競馬に関する情報の提供システムの運用業務 ・電子計算機等のリース業務 ウ なし
JRAファシリティーズ㈱ 【平成19年10月設立】 東京都港区新橋4-5-4 代表取締役社長 柘津 哲哉 300,000千円 94.9% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・建物、馬場、造園及び各種設備の保守管理並びに関連資材の販売 ・施設等の清掃、環境衛生、防疫、廃棄物の管理及び警備 ・出走馬一覧表等各種刊行物の作製及び版下作成 ・飼糧、敷料及び添加物等の輸入並びに販売 ・損害保険代理業及び生命保険の募集等 	20,510 804 7,569	10 (8) 441	ア 15,961百万円 イ ・競馬場その他諸施設の清掃業務 ・レーシングプログラム等印刷業務 ・競馬場等の馬場等施設の保守管理業務 ・競馬場等の諸施設の損害保険代理業務 ウ なし
日本馬匹輸送自動車㈱ 【昭和22年8月設立】 東京都港区新橋4-5-4 代表取締役社長 金田 裕之 36,000千円 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・競走馬の輸送 	2,099 71 1,443	5 (4) 82	ア 2,061百万円 イ ・競走馬輸送業務 ウ なし
㈱中央競馬ピーアール・センター 【昭和53年10月設立】 東京都港区新橋4-5-4 代表取締役社長 長岡 壽男 20,000千円 64.3% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・競馬及び馬文化等に関する図書及び印刷物の企画、編集、制作、出版及び販売 ・競馬及び馬文化等に関する映像業務、音声業務並びにその機器の運用、開発、販売、賃貸及び保守整備 ・競馬及び馬文化等に関する各種情報の収集及び提供 	5,994 49 1,039	5 (3) 107	ア 3,217百万円 イ ・映像伝送ネットワークシステム運用保守管理業務 ・写真管理業務 ・競馬機関誌発行業務 ウ なし
日本スターティング・システム㈱ 【昭和40年9月設立】 東京都港区新橋4-5-4 代表取締役社長 和田 雅雄 10,000千円 98.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・発馬機及びその周辺機器等の運用並びに保守整備 ・発馬機及びその周辺機器の賃貸並びに販売 ・競走馬の発走に関する補助 	1,501 91 △6	4 (2) 69	ア 1,487百万円 イ ・発馬機作業及び機材輸送業務 ウ なし
競馬セキュリティサービス㈱ 【平成4年11月設立】 東京都港区西新橋1-7-3 代表取締役社長 今野 雄三 100,000千円 0% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・総合警備保障業務 ・労働者派遣業務 	3,336 △1 1,745	5 (2) 135	ア 3,015百万円 イ ・競馬場その他諸施設の常駐警備業務 ・中央競馬開催日の場内警備業務・出走馬警備業務及び交通警備管理業務 ・競馬場有料駐車場整理、競馬場入場券等発売管理業務 ウ なし

3. 特例財団法人等の名称、住所、基本財産、事業内容、役員数、代表者の氏名、職員数及び日本中央競馬会との関係

特例財団法人等の名称・住所 代表者の氏名 基本財産 基本財産中の競馬会出捐割合	主な事業内容	年間収入 (H22 決算額)	役員数 (うち常勤) 従業員数	競馬会との関係 ア 年間収入中の競馬会支出額 (H22 実績) イ 競馬会の業務との関係及び 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
(公財)競走馬理化学研究所 【昭和40年8月設立】 栃木県宇都宮市鶴田町1731-2 理事長 栗田 晴夫 1,030,000千円 99.4% ※平成23年6月1日付で公益財団法人へ移行	<ul style="list-style-type: none"> 競走馬に施用される薬品及び薬剤の検査及び研究 騎手に施用され、又は騎手が使用する薬品及び薬剤の検査及び研究 馬の親子判定及び個体識別に係る検査及び研究 農畜産物等に使用される薬品及び薬剤等の検査及び研究 	(百万円) 993	(人) 5 (2) 34	ア 411百万円 イ 「日本中央競馬会競馬の施行等に関する規約」に定める競走馬に係る薬物検出機関 ・競走馬薬物検査業務 ・薬物検査法の開発に関する研究委託業務 ウ なし
(公財)中央競馬馬主社会福祉財団 【昭和44年10月設立】 東京都港区虎ノ門4-1-21 理事長 石原 葵 5,500,000千円 0.1% (設立時における割合は50%)	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉を目的とする事業に対する助成 国又は地方公共団体が後援等を行っている公益事業に対する助成 中央競馬関係者の福利厚生の上昇のための事業 	459	11 (1) 7	ア なし イ 競馬会が馬主に交付した競馬賞金の一部を使用してその事業を実施 ウ 理事(非常勤) 土川 健之 (競馬会理事長) 理事(非常勤) 後藤 正幸 (競馬会常務理事)
(公財)競馬保安協会 【昭和46年5月設立】 東京都港区西新橋1-1-19 理事長 田林 均 10,000千円 50% ※平成23年7月1日付で公益財団法人へ移行	<ul style="list-style-type: none"> 競馬の公正確保のために必要な調査並びに情報及び資料の収集 競馬の公正確保のために必要な研究 	1,990	5 (5) 188	ア 1,845百万円 イ 競馬の公正確保上必要な調査等を実施 ウ なし
(財)馬事文化財団 【昭和51年4月設立】 神奈川県横浜市中区根岸台1-3 理事長 田村 正明 52,000千円 96.2%	<ul style="list-style-type: none"> 馬に関する文献、標本、写真、フィルム等の博物資料(以下「馬事博物資料」)の収集、保管及び展示 馬事博物資料に関する印刷物の編集及び刊行 根岸競馬記念公苑の馬の博物館その他施設の管理運営 	637	7 (3) 26	ア 296百万円 イ 根岸競馬記念公苑「馬の博物館」、東京競馬場「JRA競馬博物館」及び「Gate.J」の管理運営等を実施 ウ なし
(財)軽種馬育成調教センター 【平成3年3月設立】 東京都府中市日吉町1-1 理事長 伊藤 克己 4,055,800千円 98.6%	<ul style="list-style-type: none"> 軽種馬の競走能力の向上等に関する調査研究 育成調教技術者の養成 共同利用に供する育成調教施設の運営・管理 	952	7 (3) 52	ア 528百万円 イ 日高育成牧場の日高育成総合施設軽種馬育成調教場の管理運営等を実施 ウ なし
(財)全国競馬・畜産振興会 【平成3年10月設立】 東京都港区西新橋1-1-19 会長 岩崎 充利 4,000,000千円 100%	<ul style="list-style-type: none"> 競馬に関する情報提供 競馬の健全な発展を図るための事業に対する助成 畜産の振興に資するための事業等に対する助成 	9,633	7 (3) 10	ア 2,473百万円 イ 競馬の健全な発展を図るための事業並びに畜産振興事業等に対する助成等を実施 ウ なし

特例財団法人等の名称・住所代表者の氏名 基本財産 基本財産中の競馬会出捐割合	主な事業内容	年間収入 (H22 決算額)	役員数 (うち常勤) 職員数	競馬会との関係 ア 年間収入中の競馬会支出額 (H22 実績) イ 競馬会の業務との関係及び 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
財団法人 ジャパン・スタッドブック・インターナショナル 【平成 22 年 12 月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 理事長 滝澤 勇 4, 196, 030 千円 95.6% ※平成 22 年 12 月 1 日付で(財)競馬国際交流協会(交流協会)と(財)日本軽種馬登録協会(登録協会)が交流協会を存続法人として合併	<ul style="list-style-type: none"> 海外における競馬に関する情報の収集及び提供並びに我が国の競馬に関する情報の海外への提供 競馬の施行、競走馬の育成に関する海外の競馬関係者との技術の交流 軽種馬の登録及び登録証明書の発行 軽種馬の登録書その他関係図書の刊行 	(百万円) 264	(人) 9 (5) 35	ア 77 百万円 イ 競馬会が必要とする海外における競馬に関する情報の収集・提供及び競馬会の行う馬の登録の基礎となる軽種馬の血統登録等を実施 ウ 監事(非常勤) 水野 豊香(競馬会理事)
財団法人 競馬・農林水産情報衛星通信機構 【平成 5 年 9 月設立】 東京都江東区永代 1-14-5 理事長 石井 秀司 4, 100, 000 千円 97.6%	<ul style="list-style-type: none"> 競馬及び農林水産業に関する通信衛星を利用した放送業務 競馬、馬事及び畜産に関する番組の制作及びその支援 	3, 793	11 (4) 21	ア 0.1 百万円 イ 通信衛星を利用した中央競馬関連の映像情報に関する番組制作、配信等を実施 ウ なし
財団法人 三木山人と馬とのふれあいの森協会 【平成 6 年 6 月設立】 兵庫県三木市別所町高木 三木ホースランドパーク 理事長 北井 信一郎 200, 000 千円 50.0%	<ul style="list-style-type: none"> 野外、体験活動等による交流事業の実施 馬事に関する普及啓発 乗馬施設等馬事に関する施設の整備及び維持管理 	407	8 (2) 18	ア 198 百万円 イ 兵庫県三木市における乗馬施設等馬事に関する施設の管理運営等を実施 ウ 理事(非常勤) 水野 豊香(競馬会理事)
財団法人 競馬共助会 【昭和 23 年 9 月設立】 東京都港区西新橋 1-1-19 会長 大野 良三 1, 500, 000 千円 なし	<ul style="list-style-type: none"> 厩舎関係者等に対する福利厚生に関する事業 診療所及び厚生会館の運営 競馬愛好者の利便に資するための厚生施設の管理・運営 競馬文化発展に資する事業 	3, 543	12 (3) 84	ア 687 百万円 イ 中央競馬厩舎関係者の福利厚生団体 ウ 理事(非常勤) 益満 宏行(競馬会理事)
財団法人 日本中央競馬会弘済会 【昭和 39 年 12 月設立】 東京都港区六本木 6-11-1 会長 大川 博志 1, 600, 000 千円 なし	<ul style="list-style-type: none"> 畜産に関する調査研究及び資料の収集 職員の福利厚生に関する事業 	280	12 (1) 10	ア 0.4 百万円 イ 競馬会職員の福利厚生団体 ウ なし

※(財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナルの「年間収入」及び「年間収入中の競馬会支出額」については、期中に合併した関係上、合併前の(財)日本軽種馬登録協会の数値は含まれておりません。

(参考) 合併前の(財)日本軽種馬登録協会の年間収入 580 百万円 年間収入中の競馬会支出額 278 百万円

IV 日本中央競馬会が対処すべき課題

1. 閣議決定

(1) 「特殊法人の整理合理化について」(平成7年2月24日閣議決定)

地方競馬との交流競走の拡大を図るとともに、通信衛星による競馬映像情報の提供、地方競馬場における中央競馬の勝馬投票券の発売等をすすめることにより、ファンサービスの改善と地方競馬への支援に努める。また、勝馬投票券の発売・払戻の自動化等により勝馬投票業務効率化に努める。

(2) 「特殊法人等整理合理化計画」(平成13年12月19日閣議決定)

管理経費・競走事業費の削減など更なる事業の効率化を図る。その一環として、公正確保と両立させつつ、一般競争入札等の範囲を大幅に拡大するとともに、関係会社等に対する委託費等を削減する。

(3) 「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)

事業

【助成金交付事業】

- 当事業の透明性向上のためにこれまで講じている外部有識者委員会による助成事業の選定・評価、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律の規定の準用等に加え、助成事業の評価結果を全面的に公表する仕組みを導入する。
- 国の畜産関係補助金との役割分担を明確化する。

【中央競馬関係事業】

- 競争性のある契約のうち競馬の公正・中立性の確保上支障のない契約については、そのすべての契約を、平成22年までのできる限り早い時期に競争入札に移行させる。
- 子会社・関係会社の組織・事業の再編・統廃合を実施する。
- 入札結果・経営内容等の情報開示を一層進める。

【その他】

- 外部監査を導入する。

組 織

- 組織運営について、一層の効率化を図るため、次の措置を講ずる。
 - ・ 競馬の公正・中立性の確保上支障のない範囲において主務大臣の関与・規制の緩和。
 - ・ 内部組織として学識経験者等で構成される中立性を有する機関の設置。
 - ・ 当該機関による定量的な経営目標の設定及び業績評価の実施。
 - ・ 当該経営目標の公表及び当該業績評価の結果の公表。
 - ・ 経営不調時における役員解任規定導入。

2. 「特殊法人に関する行政評価・監視結果に基づく勧告（日本中央競馬会）」

（平成 14 年 1 月 18 日総務大臣から農林水産大臣へ勧告）

支出の見直しについて

（1）経費の節減等

- ア) 施設整備の抑制
- イ) 施設利用料の適正化
- ウ) 子会社等との契約の見直し
- エ) 窓口業務の自動化に伴う要員縮減の推進
- オ) 競走事業費の支出の抑制

（2）ウインズの新設の抑制と運営の効率化

（3）抽せん馬制度の見直し

3. 「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」の施行に伴う情報公開への適切な対応（平成 14 年 10 月 1 日法律施行）

この事業報告書は、日本中央競馬会法施行規則第 8 条の 2 の規定に基づき、記載しています。なお、日本中央競馬会の事業年度は、1 月 1 日から 12 月 31 日までとなっています。

J R Aの事業活動について

(平成 23 年)

- J R Aは、毎週走り続けます。 -

(平成 23 事業年度事業報告書別冊)

はじめに

JRAでは、平成23年についても、「お客様とともに」「夢と感動とともに」「信頼とともに」「社会とともに」「そして未来へ」の5項目で構成する「経営の基本方針」に沿った事業活動を行ってまいりました。

平成23年の中央競馬の開催は、3月に発生した東日本大震災の影響により、開催計画など、当初の事業計画の大幅な変更を余儀なくされたため、7月7日に農林水産大臣の認可を受け、事業計画の一部変更を行いました。このことにより、開催日割や競馬番組等の大幅な変更を行いましたが、お客様をはじめ、各方面のご理解とご協力をいただき、スタンド改築及び馬場改修工事中の中京競馬場並びに震災により甚大な被害を受けた福島競馬場を除く、全国8か所の競馬場において、年間36開催（288日）・3,453競走を着実かつ円滑に施行することができました。

競走面では、JRA賞年度代表馬に輝いたオルフェーヴルの史上7頭目の三冠達成、凱旋門賞馬を破りジャパンカップを優勝したブエナビスタの活躍、ファン投票上位馬が多く参戦した宝塚記念・有馬記念での熱戦等により、お客様に「レースの迫力」「馬の美しさ」「推理の楽しみ」が一体となった競馬の魅力をお届けできたものと考えております。また、海外では、3月のドバイワールドカップにおいて、ヴィクトワールピサが優勝、トランセンドが2着になるという快挙を成し遂げました。世界のビッグレースでの日本産馬によるワンツーフィニッシュは、日本産馬の優秀性を証明するとともに、震災直後の日本に勇気を与えるものとなりました。

一方、中央競馬のお客様（総参加人員）は、延べ1億5,708万人余（対前年比93.3%）と平成22年に続き前年から減少いたしました。また、勝馬投票券の発売金も、2兆2,990億円余（対前年比：94.4%）と平成10年以降14年連続して前年実績を下回る厳しい結果となりました。

総参加人員及び発売金については、中央競馬の魅力の度合いが反映される重要な指標と考えており、平成23年におきましても、より多くの皆様に中央競馬にご参加いただけるよう、WIN5の導入を始めとして様々な施策に積極的に取り組みましたが、減少傾向に歯止めを掛けるには至りませんでした。その理由としては、東日本大震災の発生後約1か月間関東地区での場外発売を中止したこと等が大きく影響したものと考えており、特に発売金は、震災直前に対前年同期比96.6%であったものが、4月23日の関東地区での場外発売開始直前には、対前年同期比80%を切るまでに落ち込みましたが、秋以降は、

前年同期間と比べ100%を越すなど、やや持ち直しの傾向が見えました。

しかし、今後においても、我が国の雇用情勢の悪化や実所得の減少による余暇市場の縮小、ボーダーレス化した顧客獲得競争の激化などが続くと考えられ、将来的にも、少子高齢化の急進展など中央競馬を取り巻く環境はますます厳しくなるものと予想されます。

平成23年のJRAの事業活動について、事業計画の項目毎に以下に取りまとめました。この結果を平成24年以降の事業にフィードバックし、今後の競馬の魅力向上、お客様の利便性向上、事業運営の効率化・合理化等に役立てていく考えです。

<目次>

○ 平成23年度事業計画に掲げた項目等の実施概況

1. 競馬番組等に関する取組み P 4
2. お客様サービスに関する取組み P 5
3. 質の高い競走の提供に関する取組み P 13
4. 競馬の国際的な取組み P 16
5. 競馬の公正確保に関する取組み P 18
6. 登録・免許に関する取組み P 19
7. コンピュータ・システムの信頼性及び施設の安全性確保に関する取組み . . P 20
8. 事業の適正性確保等に関する取組み P 21
9. 社会活動への取組み P 22

平成23年度事業計画に掲げた項目等の実施概況

1. 競馬番組等に関する取組み

項目	内訳	具体的な内容
(1) 充実した競馬番組の提供		
	① 開催計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中京競馬場スタンド等改修工事のため、2～3月と12月の中京競馬を小倉競馬に、5～6月の中京競馬を京都競馬と阪神競馬に、それぞれ振り替えて施行 ○ 東日本大震災の影響により、事業計画を一部変更のうえ、288日の競馬開催を、スタンド等改築中の中京競馬場及び震災により甚大な被害を受けた福島競馬場を除く8か所の競馬場において施行 ○ お客様の参加機会の拡大等を図る観点から、土・日曜日以外の祝日における競馬開催を当初予定していた1月10日（祝・月）及び9月19日（祝・月）に施行したほか、東日本大震災の影響により、3月21日（祝・月）及び10月10日（祝・月）に競馬を開催
	② 重賞競走の昇格及び新規格付	<ul style="list-style-type: none"> ○ 府中牝馬ステークスをGⅢからGⅡに格上げ ○ 平成21年に新設したレパードステークスをGⅢとして新たに格付
	③ 重賞競走の施行日等の変更について	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の充実した重賞競走をより多くのお客様に楽しんでいただくため、一部重賞競走の土・日曜日の配置の見直し ○ 開催日割の変更や東日本大震災による開催中止等を踏まえ、一部重賞競走の施行日や施行場を変更
	④ 中山大障害の国際競走への変更	<ul style="list-style-type: none"> ○ J・GⅠ競走の国際的な位置づけをより明確にするため、中山大障害（J・GⅠ）を国際競走へ変更
	⑤ 有馬記念の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 有馬記念（GⅠ）への有力馬の出走を促すため、賞金を増額するとともに、当該年度のGⅠ競走優勝馬等が有馬記念で上位の成績を収めた場合に褒賞金を交付
	⑥ その他重賞競走の改善	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中京競馬場で開催を行わないことから、高松宮記念（GⅠ）を阪神競馬場で施行し、同競走当日の更なる盛上げを図る観点から、毎日杯（GⅢ）を高松宮記念当日に施行
	⑦ 出走馬決定方法の改善	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3（4）歳以上オープン競走の更なる充実を図る観点から、出走馬決定順位においてGⅠ競走での成績を重視するよう変更
(2) サマーシリーズの実施		
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 夏季競馬の更なる振興を図る観点から、次の事項を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 重賞競走を距離カテゴリー別にシリーズ化してポイント制で競い合う「サマースプリントシリーズ」及び「サマー2000シリーズ」を引き続き実施 ・ 騎乗騎手がポイント制で競う「サマージョッキーズシリーズ」を引き続き実施

(3) はくぼレースの実施について	○ 東日本大震災による節電対策のため、本年は実施せず
(4) マイルチャンピオンシップ南部杯の施行	○ 10月10日(祝・月)の東京競馬を「岩手競馬を支援する日」と位置づけ、「マイルチャンピオンシップ南部杯(Jpn I)」を施行
(5) 地方競馬との交流競走	
① 地方競馬指定交流競走	○ 地方競馬において、ダート交流重賞競走として新設重賞3競走を含む37競走(10主催者)が施行され、すべての競走に延べ162頭の中央競馬所属馬が出走。なお、東日本大震災の影響により黒船賞(高知)とマリーンカップ(船橋)の2競走が中止 ○ 地方競馬における条件交流競走は221競走(13主催者)施行され、延べ1,226頭の中央競馬所属馬が出走 ○ 本賞金額の50%(九州産馬限定競走は90%)を上限として交流競走協力金を交付
② 認定競走	○ 地方競馬において、320競走(12主催者)の認定競走を施行 ○ 認定競走には、本賞金額の90%(出走投票の結果8頭以下の競走は50%)を上限として認定競走協力金を交付
③ 中央競馬指定交流競走	○ マイルチャンピオンシップ南部杯を含むダート重賞16競走を中央競馬指定交流競走として施行し、そのうち3競走に地方競馬所属馬が延べ6頭出走 ○ 芝のGI競走とそのステップ競走を中央競馬指定交流競走として施行。GI競走には地方競馬所属馬は未出走。一方、ステップ競走には8競走に地方競馬所属馬が延べ8頭出走
④ 中央競馬特別指定交流競走	○ 認定競走の優勝馬が出走できる中央競馬特別指定交流競走には、2歳では25競走に延べ65頭、3歳では70競走に延べ96頭の地方競馬所属馬が出走

2. お客様サービスに関する取組み

項目	内訳	具体的な内容
(1) 販売施策の推進		
	① 新たな勝馬投票法等の導入	○ JRAにおいて9番目の勝馬投票法となる5重勝単勝式勝馬投票法「WIN5」及び勝馬投票券の購入に係る新たな決済手段「JRAダイレクト」の導入により、新規お客様層の獲得、競馬への参加促進、利便性向上を図った。 ○ 日本中央競馬会の競馬の施行等に関する規約第69条に規定するWIN5以外のすべての勝馬投票法(単勝・複勝・枠連・馬連・ワイド・馬単・3連複・3連単)を通年発売
	i) WIN5の導入	・ 新たな投票法として、4月に5重勝単勝式勝馬投票

		法「WIN5」を導入（合計37回実施 発売金は45,591,356,600円）
	ii) JRAダイレクトの導入	<ul style="list-style-type: none"> 中央競馬への参加拡大に資するため、勝馬投票券の購入に係る決済手段の利便性向上に向けた取組みとして、4月にクレジットカードを利用した新たな決済手段である「JRAダイレクト」を導入（会員数30,307名様、延べ利用者数203,863名様）
	② 払戻金への上乗せ施策の実施	○ お客様への利益の還元、中央競馬への参加促進と満足度の向上を図るため、「払戻金への上乗せ施策」を以下のとおり実施
	i) JRAプレミアム等	<ul style="list-style-type: none"> 通常の払戻金に売得金の5%相当額を上乗せして払い戻す「JRAプレミアム」については、当初、「東西金杯」と「GI競走当日の最終競走」を対象として実施する予定であったが、東日本大震災の影響にかんがみ、高松宮記念当日から宝塚記念当日までの10競走を「被災地支援競走」として施行したため、本年度のJRAプレミアムレースは計14競走を実施 第2回函館競馬及び第1回札幌競馬の特別53競走において、「JRA夏トク」と称し、比較的中しやすい「馬連・枠連・ワイド」の払戻金に売得金の5%相当額を上乗せして払戻しを実施 10月10日（祝・月）に「岩手競馬を支援する日」として開催した第4回東京競馬第3日において、当日の全12競走、WIN5を除く全投票法を対象に、通常の払戻金に売得金の5%相当額を上乗せして払戻しを実施 〔上乗せ総額 2,852,737,460円〕
	ii) JRAプラス10	<ul style="list-style-type: none"> 通常の払戻金が100円元返しとなる場合に、売得金の範囲内で10円を上乗せして払い戻す「JRAプラス10」を実施 〔501件 上乗せ総額 1,829,426,970円〕
	③ 現金投票の充実	○ 新たな場外発売施設を開設したほか、お客様の利便性の向上や新たな参加機会の創出を図るための各種施策を実施
	i) 新たな場外発売施設の開設	<ul style="list-style-type: none"> 全国で40番目の場外発売施設となるウインズ八代（熊本県八代市）を4月23日に開設 全国で41番目の場外発売施設となるエクセル浜松（静岡県浜松市）を8月13日に開設 地方競馬・中央競馬の更なる連携協調の一環として、12月3日より委託契約による川崎競馬場での場外発売を開始。また、同様に委託契約による浦和競馬場での場外発売について、12月15日付けで農林水産大臣あて認可申請
	ii) 競馬場・ウインズでのホスピタリティを高める取組み	<ul style="list-style-type: none"> 新規・ライト層に利用しやすい購入環境を創出するため、一部の事業所において入場口近くの投票所に有人窓口を設置

		<ul style="list-style-type: none"> 各ウインズにおいて、多くのお客様の利用を目指し、「ビギナーサポートデスク」の充実のほか、ポニーの派遣や伝統馬事芸能の披露と組み合わせたイベントの開催等、各種の取組みを実施 競馬場・ウインズ等に来場するお客様に、より良質できめ細かいサービスが提供できるよう、職員をはじめとしたスタッフに対する各種研修や、従事員等へのスキルアップ講習を実施 競馬場・ウインズ等に来場するお客様の購買動向等を調査するとともに、お客様のニーズを把握するため、「顧客満足度調査」を11月に実施
	iii) 販売ネットワークの拡充に向けた取組み	<ul style="list-style-type: none"> 新規のお客様をはじめとして、より多くのお客様の競馬への参加機会の拡大を図るため、従来の場外発売施設のあり方や形態に捉われない効果的かつ効率的な販売ネットワークの拡充に向けた調査・検討を実施。こうした中、上記i)のとおり、川崎競馬場における場外発売を実現
	iv) 各種販売施策の展開	<p>【JRAパーティーキャンペーンの実施】 より多くの方々に競馬を体験していただけるよう、結婚式やパーティーなどの会場に勝馬投票券をお届けするサービスを「JRAパーティーキャンペーン」として、夏季と秋季の計26日を対象に実施（延べ5千名様に馬券のお届けを実施）</p> <p>【クイックピック投票】 勝馬投票の経験がない方にも競馬に馴染んでいただく取組みとして、コンピュータが馬番号・組番号を選択する「クイックピック投票」を全国の競馬場、ウインズにてGI施行週を中心に実施</p> <p>【ブース販売】 おみくじ感覚でお客様に馬券を購入していただく「ブース販売」を計14の事業所で延べ76開催日実施し、新規・ライト層を多く含む延べ10万名を超えるお客様に販売</p> <p>【分煙化の推進】 競馬場・ウインズに来場するお客様の健康及び安全確保の観点から、引き続き、お客様フロアの禁煙化・分煙化を推進。具体的には、新潟競馬場、京都競馬場、小倉競馬場等に排煙装置を整えた喫煙室を新たに増設したほか、各競馬場の屋外エリアにおいても分煙化の拡大を推進。また、お客様向けの分煙告知ビデオを制作・放映する等、お客様向けの広報・告知活動を強化</p> <p>【指定席予約システムの改善】 JRAカード指定席予約システムに関して、利用者の利便性向上のため、簡単ログイン機能の追加や発売エリアを拡大（京都競馬場特A指定席）</p>

<p>④ 電話・インターネット投票の充実</p>	<p>○ 電話・インターネット投票に新たに加入されるお客様や既に加入済みのお客様の利便性向上等に資するため、以下の施策を実施</p>
<p>i) 電話・インターネット投票会員増加に向けた取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ A-PATの新規会員募集を年間24回実施（2週間ごとに手続き書類・利用開始案内を発送。A-PAT新規登録会員数 37,625 名様） ・ 即PAT会員の新規登録を随時受け付け（新規登録会員数 243,388 名様、うちジャパンネット銀行 52,363 名様、楽天銀行 69,103 名様、三井住友銀行 44,312 名様、三菱東京UFJ銀行 77,610 名様） ・ 4月からJRAダイレクトの新規利用登録の受付開始（新規登録会員数 31,945 名様）。なお、JRAダイレクトについては、3月からJRAホームページ内に「特設サイト」を設置し、広報を実施
<p>ii) 電話・インターネット投票会員の利便性向上への取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電話・インターネット投票会員の購入環境改善及び参加機会の増加を図るため、7月からインターネット投票及びPAT方式電話投票の締切時刻を従来の2分前から1分前に繰下げ ・ 電話・インターネット投票会員のスマートフォン利用者増加に対応するため、9月からスマートフォン専用の投票サイトを開設
<p>iii) 電話・インターネット投票会員向けサービスの充実</p>	<p>【各種キャンペーン】</p> <p>発売金及び参加率向上策として、電話・インターネット投票会員向けキャンペーンを以下のとおり実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オッズ・マスターズ・グランプリ・ゲットアトレジャー（4月～6月） ・ THE MISSION3・夏競馬からの挑戦状（7月～8月） ・ オッズ・マスターズ・グランプリ・ゲットアトレジャーリターンズ（10月～12月） ・ 有馬記念でハッピーエンドキャンペーン（12月）。 <p>【IPAT馬券道場】</p> <p>勝馬投票の成績に基づき上位者の表彰や段位を付与するコンテスト「IPAT馬券道場2011」を年間通して実施</p> <p>【Club A-PATキャンペーン】</p> <p>JRAと電話・インターネット投票会員との双方向ツールである「Club A-PAT」において、競馬場指定席招待等のキャンペーンを実施。また、年間を通して会員向けの「Club A-PATメール」を送信し（年間送信回数170回）、各種情報を提供するとともにJRAホームページへの誘導を図った（平成23年度末会員数1,273,190名様）</p> <p>【その他】</p> <p>長期間の利用がない電話・インターネット投票会員</p>

		<p>の利用促進を図るため、ダイレクトメールを発送（年間約18万名様に発送）。また、12月に会員（約160万名様）に対し、「JRAからのお知らせ」「レーシングスケジュール」他を送付し、電話・インターネット投票及びJRAにおける各種サービス等についての案内を実施</p>
	<p>iv) 電話・インターネット投票会員向けサポート体制の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年に引き続き、ウインズ後樂園において対面式の「電話・ネット投票サポートデスク」を通年で設置。また、4月からは、ウインズ梅田において関西地区の拠点となるようにウインズ後樂園と同様の「電話・ネット投票サポートデスク」を開始し、既存会員のサポートのみならず、即PAT会員を中心とした新規会員登録受付も併せて行い、お客様の現金及び電話・インターネット投票の併用化を推進
<p>(2) 広報活動の展開</p>		
	<p>① 競馬中継の安定的な提供等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地上波テレビ・ラジオによる競馬中継は、お客様にレース映像・情報を提供する重要な役割を果たしていることから、これら競馬中継を安定的に提供することや番組内容の改善について、各局との協議・連携を継続的に実施。特に東日本大震災後の競馬再開にあたっては、社会的批判を受けないよう、番組内容について、各局と綿密に協議 ○ 1月から、全国で視聴可能なBS11デジタル放送による競馬中継を開始
	<p>② 中央競馬のイメージ向上と競馬への参加促進（広告プロモーション）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ より効果的な年間プロモーションを行うため、未経験層・新規のお客様向け、休止中のお客様向け、既存のお客様向けに分けて広告展開を実施 ○ 未経験層・新規のお客様向けには、引き続き「CLUB KEIBA」をキーワードに、新たに佐藤健・吉高由里子・桐谷健太の3名を起用し、競馬に参加することの楽しさ、施設としての競馬場の明るさなどを描いたCMを制作・放映 ○ 休止中のお客様向けには、競馬へ復帰していただくことを目指し、90年代を中心としたGIレースを素材として、それにまつわるドラマを描き、参加意欲を刺激する告知を実施 ○ 既存のお客様向けには、多くのお客様から高い支持をいただいた平成13年制作の「最後の10完歩」をHD化し放映。また、競馬参加へのモチベーション維持を図るため、Webサイトで各種コンテンツを展開 ○ WIN5認知度アップのため、テレビCM及びインターネットでのプロモーションを展開
	<p>③ パブリシティ活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬に関する話題性を喚起するとともに、競馬に関連した紙面の充実を図るため、マスメディアへのきめ細かなパブリシティ活動を実施したほか、「優駿」など各種出版物による情報を提供

	<p>○ 競馬への理解促進やイメージアップを図るため、JRA賞授賞式や女性オピニオンリーダー競馬観戦会などを開催</p>
<p>(3) 競馬への参加促進施策の推進</p>	
<p>① 多様なお客様に応じたアプローチ</p>	<p>○ 既存のお客様により競馬をお楽しみいただくとともに、競馬に馴染みのない方々にもご参加いただけるよう、多彩なお客様サービスイベントの実施など、お客様のニーズを踏まえた各種施策を、以下のとおり実施</p> <p>【CLUB KEIBAキャンペーン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「CLUB KEIBA」のWebサイト展開による参加促進策として、「マイCLUB KEIBAサイト」の会員の獲得と定着を図るため、春のオープンキャンペーンや通年（春・夏・秋）のポイントキャンペーンを実施（会員登録者数 約266,000名様） ・ 開催競馬場に「CLUB KEIBAシート」を設置し、「マイCLUB KEIBAサイト」の会員に抽選で提供（応募総数 延べ132,000名様） ・ 春・秋のGIシリーズ期間のGI施行競馬場に「CLUB KEIBAブース」を設置し、会員限定の様々なキャンペーンを実施 ・ 競馬場での参加促進策として、「CLUB KEIBAブース」において、当日のグループ来場者に対して抽選会を実施（抽選参加者は秋季のみで約20,000名様。春季は被災地支援チャリティーイベントに変更して実施） ・ 夏季競馬への参加を促進するとともに、サマージョッキーズシリーズを盛り上げるため、競馬場・ウインズ等において来場者向けの賞品プレゼントキャンペーンとして「サマージョッキーシリーズ優勝騎手予想」（応募者 約42,000名様）を、また、「マイCLUB KEIBAサイト」会員を対象としたサマーシリーズの優勝馬予想「マイサマーホース」を実施（応募者 約41,000名様） <p>【JRAナビゲーターの来場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未経験層の競馬場への来場誘引策としてJRAナビゲーターを東京・京都の両競馬場イベントに起用 <p>【休止中のお客様向け施策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 休止中のお客様の参加促進を図るため、特定のGI競走開催週に当該競走開催競馬場において、CMや新聞広告などと連携し、素材として登場した競走馬を含めたパネル展を実施 <p>【新規のお客様向け施策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若年層及びシニア層を中心とした新規のお客様獲得策として、各競馬場において競馬教室・競馬観戦会を実施。また、カルチャースクールをはじめとする各企業の主催による競馬教室・競馬観戦会も実施（競馬教

	<p>室実施回数 200回（うち企業主催124回） 参加人数 6,663名様）</p> <p>【フリーパスの日の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「フリーパスの日」については、当初予定していた10日間（9競馬場）に加え、南部杯当日の東京競馬場など5日間を「フリーパスの日」として追加し、合計15日間（8競馬場）で実施。（入場者合計396,482名様 対前年比104.6%） <p>【ファン投票の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 宝塚記念及び有馬記念においてファン投票を実施。有効投票件数はそれぞれ137,244件（前年比102.7%）、155,168件（前年比101.1%） <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ドバイワールドカップ（3月26日）、凱旋門賞（10月2日）のパブリックビューイングを新宿・梅田の映画館で実施（合計で1,084名様が観戦。ドバイワールドカップは梅田のみ） G Iシーズンやローカル期間に、競馬キャスターやタレント等を起用し、競馬場及びウインズにおいて各種トークショーイベントを実施。また、お客様への感謝の意を表すため、「お年賀記念タオル」（1月5日、34万枚）や「2012年JRAオリジナルカレンダー」（12月11日、45万部）を配布 震災による影響が一定期間あったものの、JRAの公式プログラムとして、「レーシングプログラム」を年間を通して安定的に配布。また、特に注目度の高い日本ダービー及び有馬記念の開催週においては特別カラー版を配布 全国の競馬場において、競走名にちなんだ各地域の物産展や競馬場所在地域の名産品店の出店など様々な「食のイベント」を開催。また、札幌競馬場において、食堂・売店を利用されるお客様へのサービス改善を目的とした外部コンサルタントによる種々の調査を実施 企業とタイアップした各種イベントを、開催競馬場（福島・新潟・中京を除く）や一部ウインズにて実施 被災地支援を目的として、被災地特産品の物産展やチャリティーイベント各種、また被災地の特産品が当たる抽選会などを実施
<p>② 映像・情報サービスの拡充</p>	<p>○ 映像のハイビジョン化</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴール前シャッターカメラをハイビジョンに更新 ITVで放映するパトロールカメラビデオについて、伝送経路を光回線に変更しハイビジョン画質で提供。また、G Iレースを対象に、審議中にパトロールビデオを公開することで、レース確定前によりわかり

	<p>やすい映像を提供し、裁定の公正さをアピール</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特殊カメラの活用等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 車載カメラ・スタート地点カメラ・ゲートカメラなどの特殊カメラを活用し、よりわかりやすく迫力あるレース映像を提供。また、レース展開をわかりやすく伝えるため、通過ラップタイムをGⅡ以上すべてのレースで実施 ○ 新潟競馬場のターフビジョン更新 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新潟競馬場のターフビジョンについて、より鮮明で迫力ある映像を提供するため、ハイビジョンに対応したLED方式への更新工事に着手（平成24年4月竣工予定）
<p>③ ホームページ等のサービスの充実</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>i) JRAホームページのコンテンツの充実</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>ii) メールマガジンの配信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ JRAホームページには、1年間で約32.9億ページビュー（延べアクセス数。以下「PV」。）と過去最高のアクセス（対前年比111.6%）。その内訳はパソコンサイトが約20.0億PV（同103.9%）、携帯サイトが約12.9億PV（同125.9%）と増加。1日あたりの平均アクセス数は903万PVであり、1日あたりの最大アクセス数は有馬記念当日の約3,127万PV（パソコンサイト：2,081万PV、携帯サイト：1,046万PV） <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・ パソコン版JRAホームページについて、視認性・操作性の向上を図るため、トップページのメインビジュアル及びメニューエリアのリニューアルを実施 ・ パソコン版・携帯版とも、「競走馬検索機能」に従来の前方一致検索に加え、部分一致検索と後方一致検索を可能にするなど、各種機能を追加 ・ 夏季競馬の盛上げを図ることを目的に、7月から約2か月間、トーク形式の若手ジョッキー紹介や夏のウインズ情報提供等をコンテンツとする「夏競馬ブログ」を開設するとともに、ツイッター（Twitter）による各種情報発信を実施 ・ 有馬記念のプロモーションとして、競馬初心者・未経験者層向けに、競馬への興味喚起及び参加促進を目的とした秋季特設サイト（My sweet ウマドンナ）を開設。また、各種ポータルサイトへの広告バナーの掲載や、関連雑誌への広告の掲載により、当該サイトへ誘導 ・ 東日本大震災に伴う競馬開催の中止や開催日程の変更、他にも天候の影響などによる発走時刻等の変更に対応して、「JRAニュース」の掲載等、迅速な情報提供を実施 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「JRA Mail News」について、GI競走が施行される週及び夏競馬開幕週の合計24回（定期配信23回・号外1回）配信 ・ パソコン版HTML形式メールの配信開始1周年を

		記念して、競馬場観戦席プレゼントを実施 ※ 平成23年度末登録数：約106,000名様
(4) お客様関連施設の改善及び整備		
① 中京競馬場スタンド等の改築	○ 中京競馬場スタンド改築工事及び馬場改造工事を実施（平成22年3月着工、平成24年1月竣工予定）	
② ウインズ八代の新設	○ ウインズ八代新設工事は3月に竣工し、4月にオープン	
③ エクセル浜松の新設	○ エクセル浜松新設工事は7月に竣工し、8月にオープン	
④ 福島競馬場スタンド等の震災復旧	○ 東日本大震災により被災した福島競馬場スタンドその他の被害復旧工事を9月に着工（平成24年3月竣工予定）	

3. 質の高い競走の提供に関する取組み

項目	内訳	具体的な内容
(1) 競走馬の資質向上等への取組み		
	① 競走馬の資質の向上	
	i) 競走馬の保健衛生に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> 競走馬総合研究所を中心として、スポーツ科学・スポーツ障害・先端獣医療・生産基盤強化・伝染病対策などに関する研究を引き続き実施。また、その結果を普及・指導するため、研究成果を学会や講演会などで発表 重点研究課題として、「競走馬臨床における再生医療技術の導入に関する研究（平成22年～24年）」、「トレーニングの違いが競走馬の呼吸循環機能に及ぼす影響（平成22年～23年）」を実施 バイオテクノロジーなどの先端技術を応用した研究として、(独)農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所との共同研究により、「分子生物学的手法を応用した馬感染症の診断及びベクターに関する研究（平成21年～23年）」を実施 軽種馬生産地における疾病などの諸問題を解決する調査研究として、「繁殖牝馬の胎子診断及び流産予知に関する研究（平成22～24年）」を実施 外部研究機関への委託により、「ウマ間葉系幹細胞の腱細胞への分化誘導に関する研究」や「脳脊髄糸状虫症の免疫学的診断法の開発に関する研究」などの基礎的な研究を実施 競馬サークルへの研究成果の普及及び学術交流を図るため、11月28日に「第53回競走馬に関する調査研究発表会」を開催 生産地への研究成果の普及、生産者の研究ニーズの把握を目的とし、7月14日に「第39回生産地における軽種馬の疾病に関するシンポジウム」を開催

ii) 競走馬の生産育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、サラブレッド2歳馬80頭を用いた育成に関する研究を実施。育成した2歳馬については、4月に中山競馬場においてJRAブリーズアップセール（JRA主催によるセリ方式）を開催し、78頭を売却。また、国内1歳市場においてサラブレッド79頭を購入し育成に関する研究を実施 ・ 日高育成牧場において、繁殖牝馬及びその産駒（当歳8頭・1歳6頭・2歳7頭）を用いて、生産育成に関する研究を実施 ・ 実践的な技術指導、講習会やホームページなどを通じ、生産育成研究及び技術開発で得られた成果について、効果的な普及・啓発を実施
② 競走馬の事故防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競走馬の事故（骨折等）を防止し、充実した競馬を施行するため、調教施設及び馬場の保全管理を実施 ○ 競走馬の事故発生状況を随時調査・分析するとともに、事故防止に対する意識の向上を目的として、厩舎関係者を対象とする各種研修会を開催 ○ 事故防止に関する調査研究として、競走馬総合研究所を中心に「屈腱炎の治療法に関する調査研究」、「競走中の走行速度と事故との関係に関する調査」、施設環境面では新素材馬場、通年緑化、オーバーシード及び情報化施工に関する研究を実施
③ 防疫体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「日本中央競馬会競走馬伝染病防あつ規程」に基づく入厩検疫、定期検査及び予防接種を実施するとともに、環境衛生対策、疫学調査、ワクチンの備蓄等の防疫措置を実施 ○ 施設内における馬鼻肺炎の流行を予防するために、すべての若齢馬を対象とする予防接種体制を整備し、12月から接種を開始 ○ 3月に宮崎育成牧場において馬伝染性貧血が摘発されたことから、農林水産省と協議のうえ、移動制限措置を講じるとともに、疫学的に関連ある馬の追跡調査を実施し、4月7日までに育成牧場の清浄化を確認 ○ 農林水産省の指導に基づき、国際交流競走に参加する外国馬及び海外遠征する日本馬の輸出入検疫に付帯する業務を実施 ○ 馬伝染性子宮炎の国内清浄化の達成を受け、軽種馬防疫協議会において「馬伝染性子宮炎の自衛防疫指針」を制定。また、「馬伝染性子宮炎蔓延防止対策事業」及び「馬伝染性子宮炎侵入防止対策事業」を通じ、清浄化後の疫学監視体制を整備 ○ 国内の防疫体制の強化を目的とし、競走馬総合研究所栃木支所において、馬ピロプラズマ病診断用抗原の作成、馬インフルエンザ国内流行株に対する抗体保有状況、馬鼻肺炎ウイルスの抗ヘルペス薬に対する感受性、馬インフルエンザ及び馬伝染性子宮炎の簡易診断法の開

	<p>発に関する調査研究を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生産育成地における疾病蔓延防止及び施設内への疾病侵入阻止を目的とし、「育成馬等予防接種推進事業」を通じ、入厩前の育成馬を対象とする予防接種（馬インフルエンザ、日本脳炎、破傷風）を推進 ○ 家畜伝染病予防法の一部改正に伴い、新たに制定された「飼養衛生管理基準（馬）」に基づいて、施設内の衛生管理体制を整備
④ 生産育成基盤の強化	
i) 国内生産基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競走馬の資質向上を目的として、(社)日本軽種馬協会が実施する軽種馬改良情報整備事業に対する助成、(財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナルが実施するマイクロチップ普及促進事業を始めとする諸事業への支援を実施
ii) 生産育成に関わる人材養成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産育成調教技術者の養成を目的として、(財)軽種馬育成調教センターが実施する育成調教技術者養成事業、(社)日本軽種馬協会が実施する軽種馬生産育成技術者養成推進事業に対して支援 ・ 生産育成技術の向上を目的として、(社)日本軽種馬協会が実施する軽種馬経営高度化指導研修事業に協力 ・ 生産育成牧場への若手就業者不足の対応策として、(社)競走馬育成協会が実施する生産育成牧場への就業者参入促進事業に協力 ・ 生産者諸団体が実施する東南アジア諸国への内国産馬の流通促進に協力
(2) 厩舎関係者に関わるシステム（厩舎関連システム）の改善	
① 定期貸付馬房について	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成21年に変更した貸付方法に基づき、各調教師からの貸付馬房数の申請受付と成績査定を行ったうえ、3月1日付で栗東トレーニング・センターでは2,108馬房を、美浦トレーニング・センターでは2,130馬房をそれぞれ貸付け（トレーニングセール取引馬用を含む。なお、成績査定による加増は栗東所属の上位8名、美浦所属の上位3名に実施）
②その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年度途中の調教師の勇退、死亡等に伴い、トレーニング・センターにおける定期貸付け及び臨時貸付けを適正に実施 ○ 調教助手・騎手候補者及び厩務員（調教厩務員を含む）の承認に伴う、平成23年度末の状況 <ul style="list-style-type: none"> a) 調教助手 <ul style="list-style-type: none"> 平成22年度末 1,223名 新規に承認した者 363名 (栗東45名、美浦318名) 平成23年度末現在 1,549名 (栗東926名、美浦623名) b) 厩務員

		<p>平成22年度末 1, 446名 新規に承認した者 11名 (栗東0名、美浦11名) 平成23年度末現在 1, 012名 (栗東361名、美浦651名)</p> <p>○ 厩舎制度の改善に向けた(社)日本調教師会の取組みを支援</p>
(3) 厩舎関係者の養成等について		
① 競馬学校騎手課程生徒の養成	○ 騎手課程においては、平成20年度入学の第27期生6名、平成19年度入学の第26期生1名が卒業 【現在の在校生徒状況】 1年生 8名(30期生7名、29期生1名)(基礎課程) 2年生 6名(29期生6名)(9月15日以前は基礎課程、以降は実践課程) 3年生 5名(28期生5名)(実践課程)	
② 競馬学校厩務員課程生徒の養成	○ 厩務員課程においては、52名(うち女性1名)が卒業	
③ 騎手の身体能力向上策	○ 騎手の身体能力向上及びケアに関し、科学的根拠に基づいたトレーニング方法を策定するため、「騎手身体能力向上調査研究事業」(5か年計画、5年目)を実施	
④ 厩舎関係者の研修	○ 厩舎関係者に対し、技術・知識の向上を図るとともにその社会的責任の自覚を喚起するため、研修を実施(新規調教師・騎手研修等)	

4. 競馬の国際的な取組み

項目	内訳	具体的な内容
(1) 競走を通じた国際交流の推進		
① 国際交流競走への外国調教馬の参加実績		<p>○ ジャパン・オータムインターナショナルの競走には、エリザベス女王杯に2頭、マイルチャンピオンシップに2頭、ジャパンカップには凱旋門賞馬デインドリーム号を含む4頭の外国調教馬が出走し、エリザベス女王杯では英国馬スノーフェアリー号が優勝(ジャパンカップダートには出走なし)</p> <p>○ その他では、天皇賞(春)に1頭、安田記念に2頭、セントウルステークスに2頭、スプリンターズステークスに3頭の外国調教馬が出走</p>
② 外国の競走への中央競馬所属馬の参加実績		○ 外国の競走への中央競馬所属馬の出走を支援し、延べ16頭がイギリス、フランス、アラブ首長国連邦及び香港の競走に出走。ドバイワールドカップではヴィクトワールピサ号とトランセンド号が1、2着を独占
③ 交換競走の実施等		○ 諸外国との交流の一環として、アメリカ、イギリス、アイルランド、ドイツ、アルゼンチン、ブラジル、ニュージーランド、オーストラリア、韓国、香港、サウジアラビアとの交換競走を実施

		<ul style="list-style-type: none"> ○ アジアウィーク（マレーシア、シンガポール、タイ、インド、フィリピン、マカオとの交換競走）を、9月に札幌競馬場において実施。（社）札幌馬主協会・（社）日本軽種馬協会・日高軽種馬農業協同組合と連携し、北海道サマーセールをはじめとした日本の馬産業の一端を参加者に紹介
(2) 国際シリーズの振興		
	① アジアマイルチャレンジ	<ul style="list-style-type: none"> ○ アジア競馬連盟（ARF）加盟国・地域の競馬の活性化と競走馬の交流を目的として、メルボルンレーシングクラブ、ドバイレーシングクラブ及び香港ジョッキークラブと共に国際マイルシリーズ「アジアマイルチャレンジ」（全4戦）を企画・運営し、日本ではシリーズの最終戦（安田記念）を施行
	② グローバルスプリントチャレンジ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際交流競走の振興と世界規模でのスプリントチャンピオンを決定することを目的として、イギリスのアスコットオーソリティとニューマーケットレースコースーズトラスト、オーストラリアのレーシングヴィクトリアリミテッド、香港ジョッキークラブ及びシンガポールのターフクラブの各主催者と提携し、「グローバルスプリントチャレンジ」（全9戦）を実施し、日本ではシリーズの第2戦（高松宮記念）、第7戦（スプリンターズステークス）を施行
(3) 日本の競馬産業の振興に向けた国際的な取組み		
	① 日本の競馬情報の海外配信	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本競馬の認知度を高めるため、G I競走を中心としたレース映像を世界13か国に配信。また、JRA外国語ホームページ（英・仏・中・韓）を活用して、積極的かつタイムリーに日本の競馬情報を提供
	② 外国人顧客の誘致	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成22年に実施した市場調査を基に、中国人観光客向け競馬観戦ツアーを実施。また、英語放送ラジオ等のメディアを通じた広報活動を行い、それらを活用した在日外国人向け競馬観戦イベントを実施
(4) 海外の競馬開催国との連携		
		<ul style="list-style-type: none"> ○ アジア競馬連盟（ARF）の会長国及び国際競馬統括機関連盟（IFHA）執行協議会の常任国として相応しい責務を果たすとともに、国際会議等を通じて各国の主要関係者に対する働きかけを行うことなどにより、国際社会の中でリーダーシップを発揮し、わが国競馬の国際的地位の向上、各国の競馬振興及び国際協調の維持発展に寄与
(5) アジアにおける競馬振興への取組み		

	① 中国との関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 政府公認競馬の再開が期待される中国について、現地の馬産業事情に関する調査を実施するとともに、中国政府関係者及び技術者等を日本に招聘し、競馬の開催及び生産に関する研修を実施。また、競走馬の馴致及び血統登録に関する研修を北京において実施。これらの活動を通じて、わが国の生産関係者と馬産業関係者との協力関係の強化が図られ、中国人によるセリ市場での日本馬購買が継続 ○ 日本産馬の海外販路拡大を支援するため、中国で日本のセリ市場及び競馬関連産業のプロモーションを実施。また、日本の生産団体と中国国営企業関連団体との業務提携を支援し、日本産馬輸出体制を整備
	② A R F 研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ アジア競馬連盟（A R F）加盟国の開催執務員を対象としたA R F 定期研修（6月）及び専門研修（8月）を実施
（6）裁決業務の国際協調		
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬の国際化の進展に伴い、裁決業務に関する各国の相互理解を深め、また、共通のルールを模索するため、I F H A が主催する「裁決事項の調和に関する委員会」、「国際裁決委員会議」等に出席・協議

5. 競馬の公正確保に関する取組み

項目	内訳	具体的な内容
（1）公正な競走の安全・円滑な施行		
	① 公正確保の維持	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「公正確保」は、競馬に対する社会的信用を維持するうえでの根幹となるものであることから、公正確保上対応が必要な事案に関して調査等を実施するとともに、厩舎関係者に対して適宜指導を実施 ○ 平成23年度については、調教師と暴力団員との交友事案が1件発生し、当該調教師の免許を取り消した。本事案の発生にかんがみ、「競馬サークルからの反社会勢力の排除徹底」について厩舎関係者に対して再度注意喚起を行うとともに再発防止策を実施
	② 騎手・調教師に対する制裁	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬開催における騎手に対する制裁は、戒告・過怠金が554件（うち地方競馬における戒告が3件）、騎乗停止が35件（うち外国の競馬における騎乗停止が1件、地方競馬における騎乗停止が1件）。中央競馬における騎乗停止処分の内訳は、進路の取り方によるものが31件（うち、第1着から第3着までに入線した馬の走行妨害が11件、その他の走行妨害が18件、走行妨害には至らない進路影響が2件） ○ 競馬開催における調教師に対する制裁は、戒告・過怠金が55件（うち地方競馬における戒告が5件）
	③ 研修会等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬の公正、安全及び円滑な施行に資するため、制裁点数制による騎手の再教育（延べ15名に対して実

		施)、障害騎手研修、若手騎手研修、審判関係業務に関する調教師・騎手との意見交換会及び報道関係者を対象とした審判関係業務に関する説明会・研修会等を実施
	④ 馬体検査の実施	○ 競走当日及び調教時に、出走予定馬を対象とした馬体検査を適正に実施
	⑤ 騎手の健康の保護及び競走の安全確保	○ 騎手の健康保護及び競走の安全を図るため、「騎手の薬物使用に関する検査実施要綱」に基づき、騎手に対するドーピング検査を実施
(2) 不正事案の未然防止及び自主警備体制の整備		○ 競馬の公正な施行を確保するため、厩舎地区などの業務エリアにおける警備を実施 ○ お客様の安全確保及び場内外の秩序維持のため、自主警備を万全な体制で実施するとともに、関係機関と連携し、競馬の公正を阻害するおそれのある者の発見と排除を徹底 ○ 警備体制の構築にあたっては、「警備体制に関するガイドライン」に基づき、効率的な配置を実施
(3) 禁止薬物に対する取組み		○ 公正な競馬の施行に資するため、引き続き禁止薬物の取締りに関する指導・啓発を実施（陽性事案はなし。） ○ 日本中央競馬会の競馬の施行等に関する規約第58条に規定される理化学検査を適正に実施し、また、当該検査機関である（公財）競走馬理化学研究所が実施する競馬の公正確保に関連する事業に協力 ○ 出走馬に禁止薬物が使用されることのないよう、厩舎関係者に対する指導・啓発等の活動を実施 ○ 薬物規制制度の国際協調に向けて、関連制度を整備
(4) 勝馬投票に関わる違法行為の防止対策		
	① 未成年者の勝馬投票券購入防止対策	○ 未成年者の勝馬投票券購入防止対策として、職員等による指導注意活動を実施するとともに、レーシングプログラムやJRAホームページ等の各種媒体を活用した広報活動を実施
	② ノミ行為・違法インターネット賭事等の防止対策	○ ノミ行為・インターネット賭事等の違法行為防止対策として、これらの勝馬投票類似行為が違法であることを積極的に各種媒体等で広報告知
	③ 悪質な情報提供会社による被害防止対策	○ 競馬に関する悪質な情報を提供する会社による被害を防止するため、JRAホームページや各競馬場・ウインズでの掲示等による、お客様に対する注意喚起を強化するとともに、関係機関と連携しながら当該業者に対して警告文を送付する等の対策を実施

6. 登録・免許に関する取組み

項目	内訳	具体的な内容
(1) 登録及び免許の実施状況		
① 馬主登録	平成22年度末	2,321名（うち法人295、組合46、本邦外5）
	新規登録	82名（うち法人8、組合1）
	登録抹消	115名（うち法人9、組合4）

		平成 23 年度末現在 2,288 名（うち法人 294、組合 43、本邦外 5）
② 競走馬登録	平成 22 年度末 新規登録 登録抹消 平成 23 年度末現在	7,989 頭 5,264 頭（うち再登録 377 頭） 5,320 頭 7,933 頭
③ 服色登録	平成 22 年度末 新規登録 登録抹消 平成 23 年度末現在	1,981 件 101 件 130 件 1,952 件
④ 調教師免許	平成 22 年度末 免許不更新の者 平成 23 年度免許者 平成 23 年度末現在	218 名 7 名 218 名 210 名 〔3 月 1 日付 更新 211 名、新規 7 名〕 ※その後、取消者 8 名
⑤ 騎手免許	平成 22 年度末 免許不更新の者 平成 23 年度免許者 平成 23 年度末現在	142 名 1 名 148 名 141 名 〔3 月 1 日付 更新 141 名、新規 7 名〕 ※その後、取消者 7 名
※ ①～⑤について、いずれも国際交流競走、国際騎手招待競走及び地方競馬との指定交流競走は除く数		
(2) 短期免許の交付	○	外国人騎手の短期免許について、平成 23 年度は 10 名（延べ 15 名）に臨時試験による短期免許を交付
(3) クラブ法人への対応	○	クラブ法人関連については、金融商品取引法関連法令に基づく登録業者の指導を監督官庁との連携のもと実施

7. コンピュータ・システムの信頼性及び施設の安全性確保に関する取組み

項目	内訳	具体的な内容
(1) コンピュータ・システム関連		
① 情報セキュリティの確保		<ul style="list-style-type: none"> ○ 各システムの更新及び新規導入に合わせて、情報資産管理台帳及びリスク管理シートを適宜更新。また、情報セキュリティに関する調査・評価を 12 月に実施 ○ 情報セキュリティに関する知識・理解の定着のために、新規採用職員向け講習（4～5 月）及び e ラーニングを利用した全職員向け研修（12 月）を実施 ○ 競馬開催に関連する各システムにおいて、不正侵入防御システム（IPS）等を適切に運用し、不正アクセスや情報漏洩等の起こらないセキュリティ体制を維持
② システムの更新及び全体最適化		<ul style="list-style-type: none"> ○ 各システムの信頼性、安定性及び効率性の向上を図るために、システムの更新等を行うとともに、円滑なデータ連携の実現等に向けて全体最適化を進めた <ul style="list-style-type: none"> i) 平成 23 年に更新等を行い運用開始したシステム

		<ul style="list-style-type: none"> ・ W I N 5 対応システム ・ J R A ダイレクトシステム ・ 次期インフォメーションシステム ・ 競馬場情報管理システム (D I A N A) ・ 楽天銀行側向け即 P A T システム ・ 第 7 次現金投票場内システム及び第 7 次現金投票端末機 ・ スマートフォン対応 I P A T システム ・ C l u b A - P A T システム ・ レース指定式テレホンシステム ・ 坂路調教ラップタイム自動計測システム (A L I S) センサー ・ 指定席予約システム窓口端末 ・ 競走馬情報管理システム (J A R I S Ⅲ) ・ J R A ネットシステム ii) 平成 2 3 年に更新開発に着手したシステム ・ 一般社団法人共同通信社向け外部情報システム (電話・インターネット投票) 加入者管理システム ・ データウェアハウスシステム (購入動向分析システム) ・ 次世代 J A R I S システム (J A R I S - R) ・ 会計システム (O A C S) ・ 開催従事員給与管理システム (E M S V) (センタシステム)
(2) 施設の改善及び整備		
	① 栗東トレーニング・センター厩舎改築工事	<ul style="list-style-type: none"> ○ 栗東トレーニング・センターにおいては、平成 1 5 年 7 月から順次厩舎改築工事を実施しており、平成 2 2 年 1 0 月に着工した第 8 期工事を 1 0 月に竣工 ○ 第 9 期工事を 1 2 月に着工 (平成 2 5 年 1 1 月竣工予定)
	② 美浦トレーニング・センター乗馬苑移設工事	<ul style="list-style-type: none"> ○ 美浦トレーニング・センターにおいて、厩舎の改築用地を確保するため、平成 2 2 年 1 2 月に着工した乗馬苑移設工事を実施 (平成 2 4 年 4 月竣工予定) ○ モデル厩舎設置を目的とした先行工事を 9 月に着工 (平成 2 4 年 1 2 月竣工予定)

8. 事業の透明性確保等に関する取組み

項目	具体的な内容
(1) 情報公開に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」に基づく開示請求は 3 件あり、2 件を開示、1 件を不開示 ○ 「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づく開示請求は 2 件あり、1 件を部分開示、1 件を不開示 ○ 情報公開法の規定に基づき、J R A の経営内容等が掲

	載された文書について、引き続き、JRAホームページ等を活用して公開
(2) コンプライアンス体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○ コンプライアンス体制の一層の充実を図るため、役職員が日々守るべき基本的な行動基準を具体化した「コンプライアンス行動指針」の周知徹底に努め、その実践を推進 ○ 役職員に対し継続的にコンプライアンスに関する研修を実施するとともに、内部監査等によりコンプライアンス体制の現況について確認、点検し、適宜必要な見直しを実施
(3) 契約・入札等に関する取組み	<ul style="list-style-type: none"> ○ 契約の適正化に向けた不断の点検を行い、契約の一層の競争性・公正性の向上を図った ○ 契約手続きの透明性を確保するため、工事の発注、物品の製造・購入及び役務に関する情報等について、JRAホームページに随時公開

9. 社会活動への取組み

項目	内訳	具体的な内容
(1) 環境への取組み		
	① リサイクルに関する取組み	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成20年度より新たな環境対策の柱として取り組んでいる「RAP90」（リサイクル・アクション・プログラム・90：排出物のリサイクル率を90%以上とすることを目標とした取組み）に基づき、排出物の個別項目毎のリサイクル率の向上及びリサイクルの質を改善 ○ なかでも競馬開催に伴う排出物については、リサイクル率の目標を45%と設定 ○ この結果、平成23年度のリサイクル率は、全体：91.4%（前年90.3%）、競馬開催に関する排出物：46.7%（前年45.0%）
	② 温室効果ガス排出対策について	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各事業所のエネルギー使用量を基にCO₂の排出量を算定し、その排出抑制に向けて、新たな自主目標として総量削減と原単位削減の複合目標を策定。目標達成のため、必要な省エネルギー対策工事を実施するとともに、全事業所において省エネルギー推進体制を構築 ○ 平成23年度のCO₂総排出量は、92,042 t-CO₂/年（基準年比73.2%）となり、原単位は、0.0238kl/m²（対前年比74.8%） ○ 中京競馬場のスタンドについては、太陽光発電システムや自然通風を利用した二重屋根（ダブルルーフ）・通気トンネル（クールトレンチ）を採り入れるなど、環境に配慮した対策を実施
(2) 地域社会への貢献		
	① 地域社会との連携協調	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬開催の円滑な施行のため、地元自治体への協力を実施するなど、地域社会と連携・協調 <ul style="list-style-type: none"> ・ 錦町こどもまつり（ウインズ立川）」や「神戸元町

		<p>『夜市』（ウインズ神戸）」など、地域の祭りや団体が主催する多くの催しに、ポニー等を提供。また、近隣の学校教育機関等ではミニチュアポニーとのふれあい活動を展開するなど、「馬」を活用した地域密着型の協力を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東日本大震災で避難している子供を激励するため、避難所であった新潟市豊栄総合体育館にポニーを派遣し、試乗会を実施
	② 防災体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関係法令に沿った防災体制の整備に加えて、東日本大震災の発生を機に、防災体制をさらに強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種防災計画・マニュアルの総点検及び職員他関係者への周知徹底 ・ 携帯用防災マニュアルを作成し、関係者に携帯を義務付ける等、防災意識の向上の促進 ・ 自然災害等の発生時の対策として、お客様のみならず周辺住民の避難にも対処可能な防災備蓄品の配備を、全国の競馬場において引き続き実施
	③ 競馬場・ウインズ等の交通対策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬開催日の交通対策として、周辺環境へ配慮し来場車両を抑制するため、お客様に公共交通機関の利用を呼びかけ ○ 周辺道路の混雑及び渋滞の要因となる違法駐車車両を排除するための対策を実施
	④ 環境整備の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬場・ウインズ等が所在する地方自治体において、道路整備その他地域環境改善事業等の環境整備を実施
(3) 乗馬普及・馬術の振興及び馬事文化の発展等に関する取組み		
	① 乗馬の普及	<ul style="list-style-type: none"> ○ 馬事公苑及び各事業所において、一般市民やスポーツ少年団を対象とする乗馬指導や初心者向け乗馬教室を実施 ○ 乗馬に取り組む子供達の目標となるよう、全国5地区の予選会で選出された代表者8名によるポニー競馬の決勝戦として、全国ポニー競馬選手権「第3回ジョッキーベイビーズ」を、11月6日に東京競馬場において開催 ○ 全国の事業所において、馬と直接触れ合う機会を拡充するため、「馬に親しむ日」や「愛馬の日」をはじめとする馬事イベントを開催 ○ 競馬開催日に、「体験乗馬・馬車」「誘導馬によるお出迎え・お見送り」「ポニーとのふれあい」を実施 ○ 乗馬人口の拡大を図るため、(公社)全国乗馬倶楽部振興協会、(財)三木山人と馬とのふれあいの森協会が実施する乗馬普及事業を支援
	② 馬術の振興	<ul style="list-style-type: none"> ○ 馬事公苑馬術大会「ホースショー」等の競技会を主催 ○ 「全日本障害馬術大会」などの競技会に施設を貸与 ○ 学生を含めた馬術関係者の知識・技術の向上を図るため、馬事公苑において各種講習会を開催 ○ 事業所周辺の学生馬術部及び乗馬クラブに対して、直接的な技術指導を実施

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 馬を取り扱う担当職員の技術向上を目的として、馬事公苑において乗馬技術や競走馬の再調教技術に関する各種講習会を実施 ○ 各事業所において、馬事公苑職員による技術講習会を実施 ○ わが国の馬術の振興を図るため、(社)日本馬術連盟が実施する馬術振興事業を支援
③ 馬事文化の発展	
i) 「馬の博物館」及び「競馬博物館」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 馬の博物館では、馬と人との交流によって生まれた様々な文物を常設展示し、また特別展「神田日勝北の大地から～馬と歩んだ画業」やテーマ展「絵馬と玩具と馬頭観音～栗山直次郎より～」などを実施 競馬博物館では、特別展「平成の大接戦～語り継がれる名勝負の数々」やテーマ展「華やかなる勝負服」などを実施。また、阪神競馬場において、移動展「日本競馬20年のあゆみ～競馬文化の広がり国際化～」を実施
ii) JRA賞馬事文化賞	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成23年度のJRA賞馬事文化賞には、島田明宏氏の「消えた天才騎手 最年少ダービージョッキー・前田長吉の奇跡」を選出。同作品は、昭和18年に牝馬のクリフジに騎乗し、弱冠20歳、最年少でダービージョッキーとなった前田長吉騎手の伝記で、日本が最も苦難に直面した第二次世界大戦中の競馬の様相、またその戦争に翻弄された騎手前田長吉の悲運を興味深く描いたもの
iii) 馬事伝統文化の保存	<ul style="list-style-type: none"> ・ 馬事文化の発展に寄与するため、競馬場・ウインズ等において、日本各地に伝わる伝統馬事芸能を披露したほか、日本在来馬8種の保存事業に対して助成
(4) 特別振興事業等	
① 競馬振興事業	○ 平成22年12月に農林水産大臣の認可を得て、事業を実施(別表12)
② 畜産振興事業	○ 5月(一部震災対策事業として、7月、9月、12月)に農林水産大臣の認可を得て、交付金を交付(別表13)
③ 払戻金への上乗せ	○ 1号給付金として28億5,273万7,460円、2号給付金として18億2,942万6,970円、合計46億8,216万4,430円を払戻金に上乗せ
④ 競走馬生産振興業務への交付	○ 地方競馬全国協会が行う、組織化対策・経営基盤強化対策等の「競走馬生産振興業務」に対し、5億円を交付
⑤ 認定競馬活性化計画補助業務への交付	○ 地方競馬全国協会が行う、認定都道府県等に対する「認定競馬活性化計画補助業務」について、5億7,696万8,000円を交付
(5) 東日本大震災の被災地支援の取組み	
① 被災地支援の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ○ 被災地支援競馬の施行(3月19日、20日、21日、26日、27日) ○ 被災地支援競走の施行(3月27日～6月26日のGI競走施行日・施行場の最終競走) ○ WIN5を通じた被災地支援(4月24日～6月26

		<p>日のWIN5の売得金を対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アジアウィーク（第1回札幌競馬第7日、第8日）を通じた被災地支援 ○ 「岩手県競馬を支援する日（10月10日・第4回東京競馬第3日）」を通じた被災地支援 ○ JRAブリーズアップセール開催を通じた被災地支援（4月25日） ○ 競馬場・ウインズに募金箱を設置 ○ 競馬場・ウインズでチャリティーイベント・被災地地元物産展等を実施
	<p>② 義援金（支援金）等の拠出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ お客様からのご支援をいただき、被災地支援競馬の開催等を通じて、約50億円の資金を確保し、34億円余を拠出（残余については平成24年度に拠出予定） <p>（内訳）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災地支援競馬（3月19日～27日）の売得金の一部：1,000,000,000円 ・義援金：100,000,000円 ・被災地支援競走（計11競走）：1,106,900,150円 ・WIN5の売上げの約15%：1,825,448,220円 ・アジアウィーク（9月3日、4日）の売上げの一部：100,000,000円 ・「岩手県競馬を支援する日（10月10日）」の売得金の一部：851,470,810円（うちマイルチャンピオンシップ南部杯の売上げの一部は、351,470,810円） ・3月19日～21日の入場料相当額：14,350,700円 ・ヴィクトワールピサ記念デー入場料収入額：4,067,000円 ・JRAブリーズアップセール収益金の一部：1,000,000円 <p>（拠出先）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本赤十字社：1,188,648,355円 ・福島県：1,000,000,000円 ・福島市：200,000,000円 ・岩手県競馬組合：501,470,810円 ・岩手県：500,000,000円 ・相馬野馬追執行委員会：10,000,000円 ・千葉県：500,000円 <ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬場・ウインズで、義援金の募金やチャリティーイベントを実施し、日本赤十字社へ寄附（一部は平成24年に寄附予定）

<別表目次>

○ 別表 1 (開催競馬場別開催実績)	P 2 7
○ 別表 2 (平成 2 3 年度の各種実績)	P 2 8
○ 別表 3 (平成 2 3 年度開催日程)	P 2 9
○ 別表 4 (開催回数の推移)	P 3 0
○ 別表 5 (開催日数及び競走回数の推移)	P 3 0
○ 別表 6 (出走頭数の推移)	P 3 0
○ 別表 7 (総参加人員及び入場人員の推移)	P 3 1
○ 別表 8 (発売金の推移)	P 3 1
○ 別表 9 (電話・インターネット投票会員数の推移)	P 3 2
○ 別表 1 0 (投票法毎の発売金の構成比の推移)	P 3 2
○ 別表 1 1 (馬主・調教師・騎手・調教助手・厩務員数の推移)	P 3 3
○ 別表 1 2 (競馬振興事業)	P 3 4
○ 別表 1 3 (畜産振興事業)	P 3 6
○ 別表 1 4 (J R A 賞 受賞馬及び受賞者)	P 4 0

1. 開催競馬場別開催実績

	回数	日数	競走回数	出走延頭数	入場人員	発売金額
札幌	2回	16日	192競走	2,324頭	183,230名	73,343,877,000円
函館	2	16	192	2,284	103,859	67,135,688,400
福島	—	—	—	—	—	—
新潟	5	44	528	7,662	538,824	215,237,444,900
中山	5	36	430	6,254	1,080,214	376,788,241,400
東京	5	41	491	7,012	1,730,724	491,308,244,600
中京	—	—	—	—	—	—
京都	6	52	624	8,899	1,271,818	459,771,210,100
阪神	6	39	468	6,799	851,434	373,273,159,100
小倉	5	44	528	7,733	391,002	196,614,598,900
計	36	288	3,453	48,967		2,253,472,464,400

※WIN5の発売金を除く

2. 競走成績

サラブレッド系	競走回数			出走延頭数	出走実頭数	1競走平均出走頭数
	一般競走	特別競走	重賞競走			
2歳	524回	38回	11回	7,852頭	2,875頭	13.7
3歳以上	1,895	750	113	39,537	7,948	14.3
障害	105	7	10	1,578	562	12.9
合計	2,524	795	134	48,967	※11,083	14.2

※ 平地競走と障害競走の両方に出走した馬の数は、302頭。

◎ 平成 23 年度の各種実績

①開催回数・開催日数	36 回・288 日
②競走回数	3,453 競走（前年実績 3,454 競走）
③出走延頭数	48,967 頭（前年実績 49,895 頭）
④勝馬投票券の発売金	2 兆 2,990 億 6,382 万 1,000 円（対前年比 94.4%）
⑤開催競馬場の入場人員	615 万 1,105 名（対前年比 91.3%） ^{※1}
⑥総参加人員 ^{※2}	1 億 5,708 万 8,673 名（対前年比 93.3%）

^{※1}うち女性入場人員は 82 万 8,003 名（対前年比 86.8%）。全体比 13.5%。

^{※2}開催競馬場の入場人員にパークウインズ(6,692,500)、場外発売所(49,549,834)及び電話・インターネット投票(94,695,234)の利用者数を加えたもの。

● 開催日程の変更

※ 東日本大震災の影響により、第 2 回中山競馬第 5 日～8 日（3/12～20）、第 1 回阪神競馬第 5 日・6 日（3/12～13）、第 2 回小倉競馬第 5 日・6 日（3/12～13）、第 3 回中山競馬（3/26～4/17）及び福島競馬（4/9～24・6/18～7/10・10/22～11/20）の開催を中止し、開催日程を変更のうえ 36 開催 288 日の競馬を施行。（変更後の開催日程は別表 3）

※ 降雪の影響により、第 1 回小倉競馬第 7 日（2/12）の 4 レース以降を中止し、4 レース以降は出馬投票をやりなおして、2 月 14 日に続行競馬を実施。

〔発売金〕

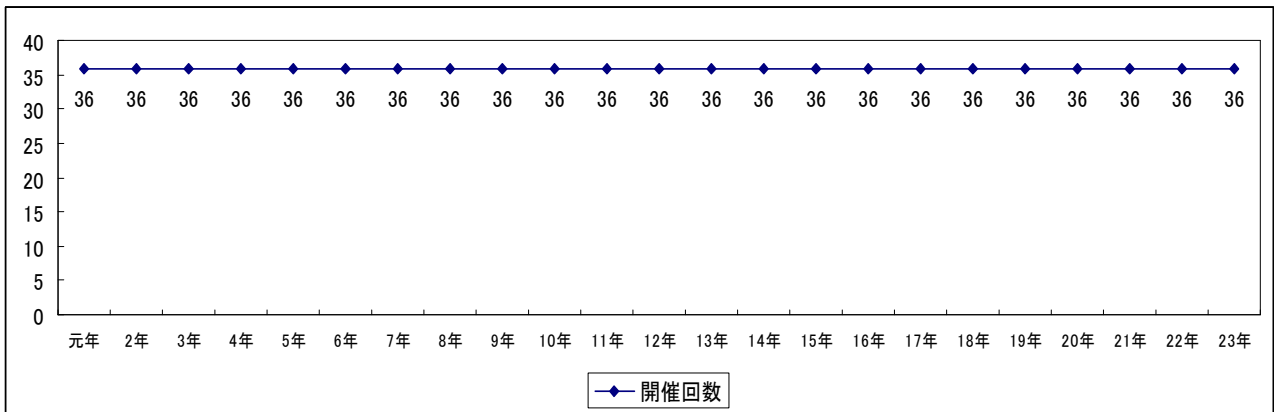
		対前年比	構成比(前年)
発売金総額	2 兆 2,990 億 6,382 万 1,000 円	94.4%	-
(内訳)			
開催場における自場分	967 億 2,723 万 9,500 円	88.4%	4.2%(4.5%)
" 他場分	609 億 9,305 万 9,500 円	96.5%	2.6%(2.6%)
パークウインズ	1,492 億 8,660 万 5,800 円	81.0%	6.5%(7.6%)
場外発売所	6,431 億 8,726 万 6,600 円	87.0%	28.0%(30.3%)
電話投票	1 兆 3,488 億 6,964 万 9,600 円	100.7%	58.7%(55.0%)

- ・ 10 競馬場、新たに W 八代、E 浜松、W 川崎加えた 42 場外発売所、盛岡・水沢・佐賀・荒尾の地方競馬場及び電話投票において勝馬投票券発売業務を実施（東日本大震災直後の電力事情等の影響により、東北・関東地区での場外発売を一時中止。）
- ・ 発売金（WIN5 を除く）に占める重賞競走の割合は 31.1%（前年実績 31.1%）、G I 競走（Jpn I を含む）の割合は 15.1%（前年実績 15.1%）。
- ・ G I 競走（Jpn I を含む）の発売金は対前年比 92.9% となり、前年実績を上回った競走は、全 23 競走中 4 競走。
- ・ 現金投票における一人当たり購買額は 15,229 円（対前年比 101.4%）、電話投票における一人当たり購買額は 14,244 円（対前年比 101.4%）。
- ・ 電話投票会員数（平成 23 年度末）は、3,307,185 名（対前年比 105.8%）。

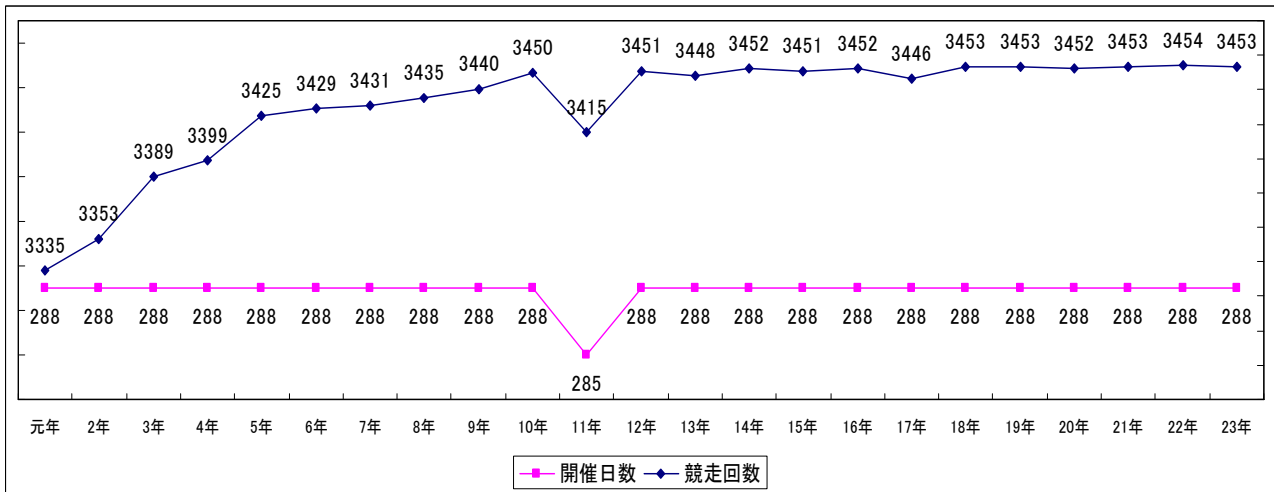
【別表3】平成23年度開催日程（開催日程変更後）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
1月	祝	日	月	火	水	木	金	土	日	祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	
		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
		日刊スポーツ賞 中山金杯(GⅢ)	スポンニチ賞 京都金杯(GⅢ)	日刊スポーツ賞 シンザン記念(GⅢ)	東京新聞杯 (GⅢ)	デイリー杯 クイーンC(GⅢ)	フェアリーS (GⅢ)	共同通信杯 (GⅢ)	ダイヤモンドS (GⅡ)	日経新春杯 (GⅡ)	阪神杯 (GⅢ)	アメリカJCC (GⅡ)	シルクロードS (GⅢ)	平安S (GⅢ)	アールンTONC (GⅡ)	フェブラリーS (GⅠ)	アールンTONC (GⅡ)	アールンTONC (GⅡ)	アールンTONC (GⅡ)	アールンTONC (GⅡ)	アールンTONC (GⅡ)	アールンTONC (GⅡ)	アールンTONC (GⅡ)	アールンTONC (GⅡ)	アールンTONC (GⅡ)	アールンTONC (GⅡ)	アールンTONC (GⅡ)	アールンTONC (GⅡ)	アールンTONC (GⅡ)	アールンTONC (GⅡ)	アールンTONC (GⅡ)	
2月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	
					1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
					小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	小倉大賞典 (GⅢ)	
3月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	
4月	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
5月	日	月	祝	祝	祝	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
6月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
7月	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
8月	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
9月	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	祝	火	水	木	祝	土	日	月	火	水	木	金	土	
10月	土	日	月	火	水	木	金	土	日	祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	
11月	火	水	祝	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	祝	火	水	木	祝	土	日	月	火	水	木	
12月	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	祝	火	水	木	祝	土	日	月	火	水	木	金	土	

【別表4】開催回数の推移（平成元年以降）

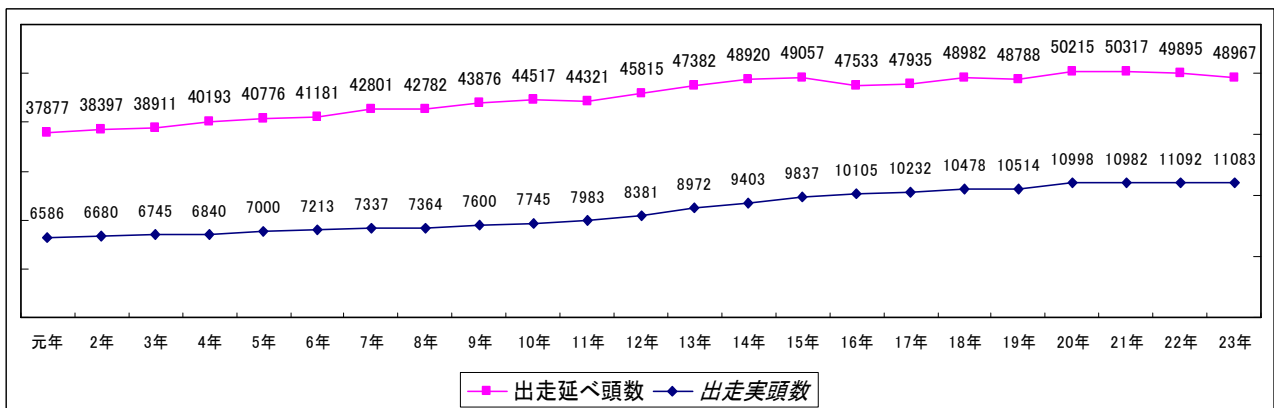


【別表5】開催日数及び競走回数の推移（平成元年以降）



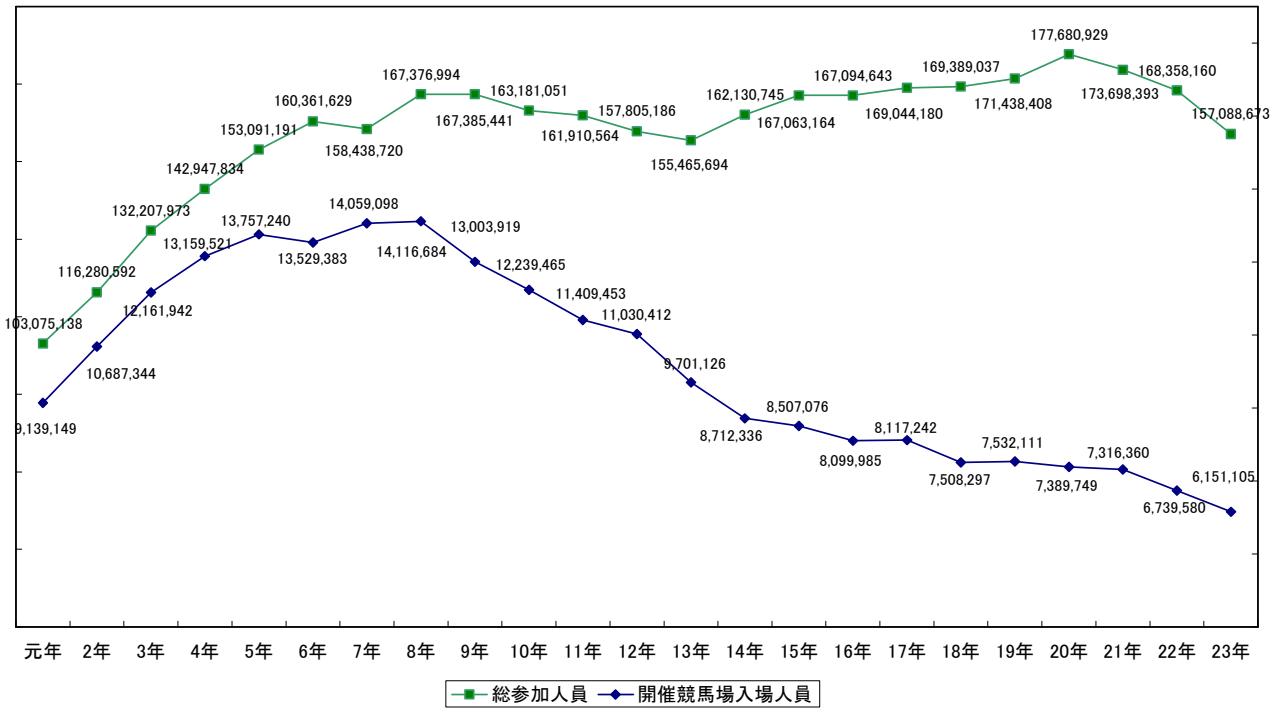
注) 平成11年：厩務員春闘の影響により3回中山第3日、2回阪神第3日、2回中京第3日を取止め

【別表6】出走頭数の推移（平成元年以降）



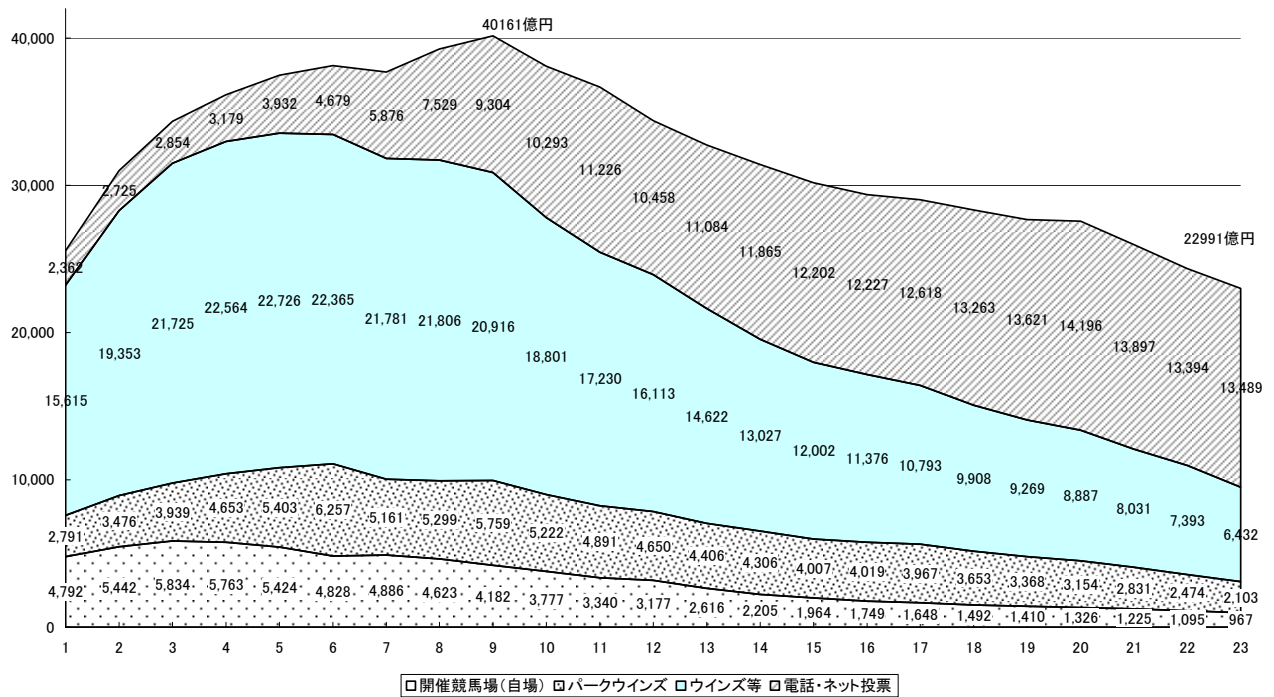
【別表 7】 総参加人員及び入場人員の推移

◎ 総参加人員・開催競馬場入場人員の推移

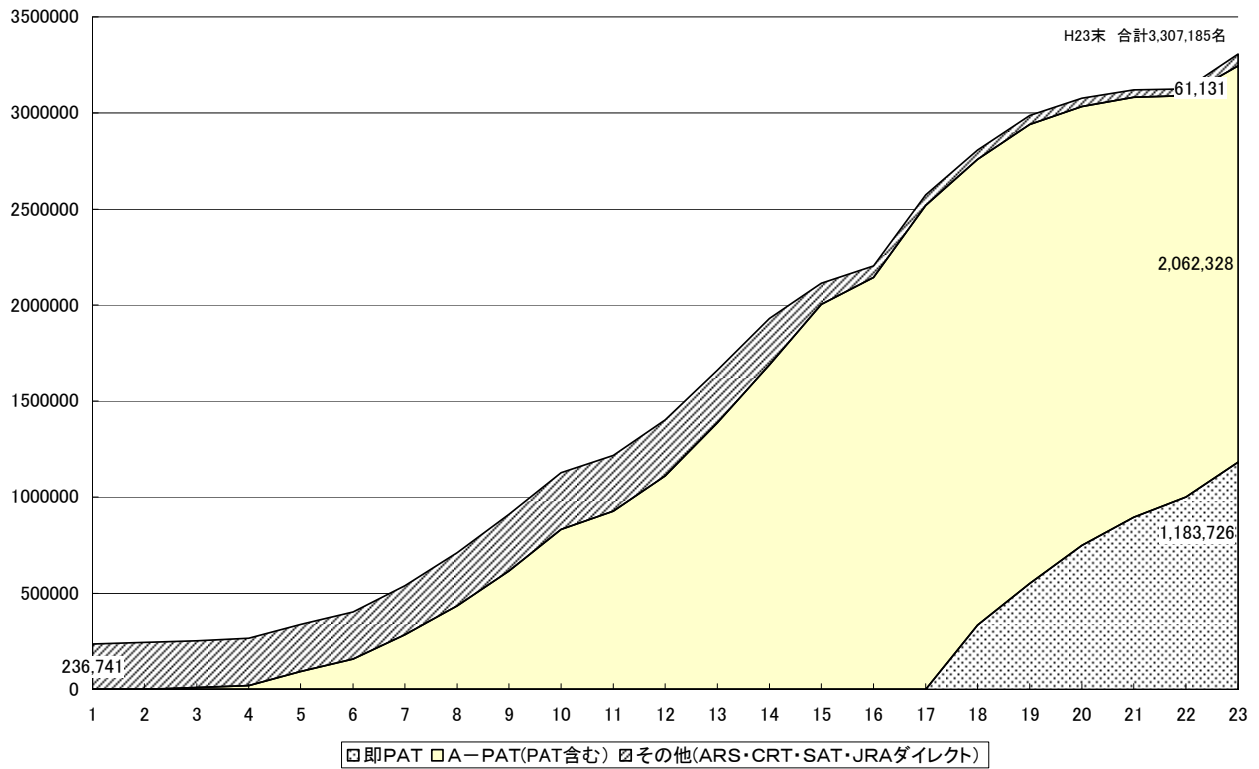


【別表 8】 発売金の推移

○ 発売金の推移(単位:億円)



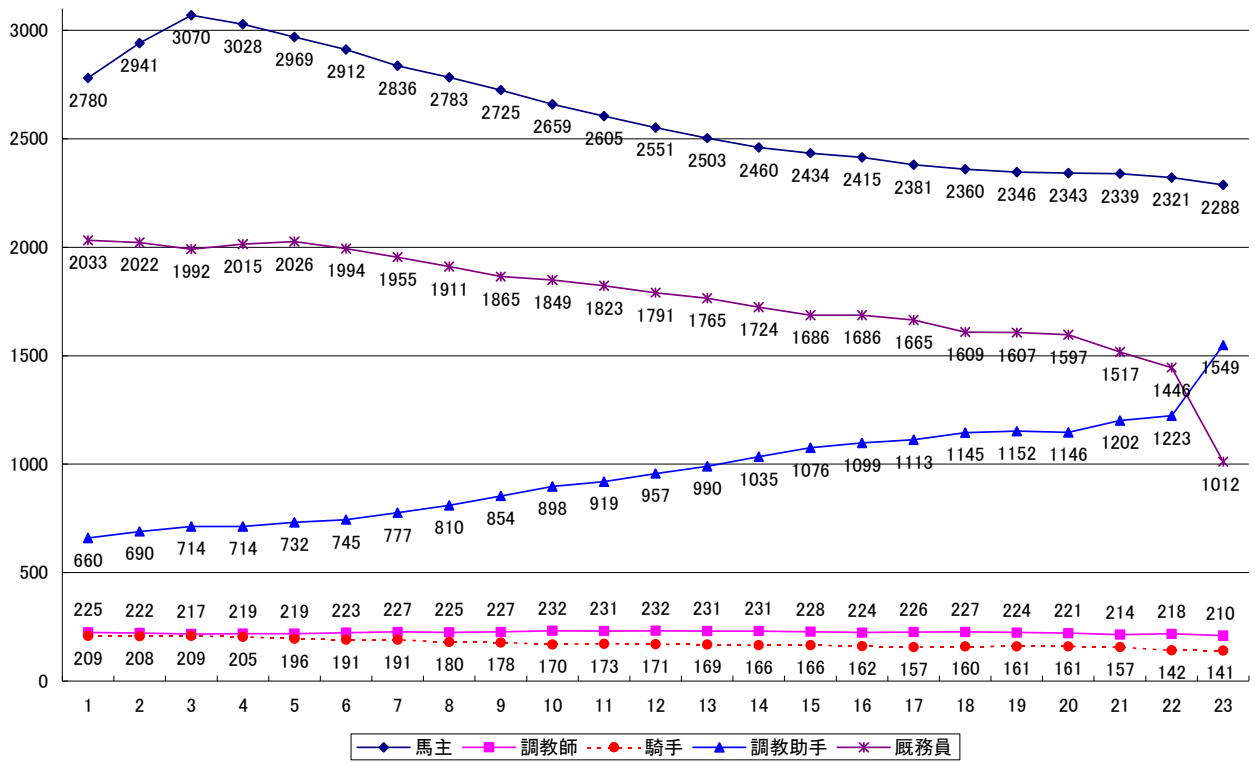
【別表 9】 電話・インターネット投票会員数の推移（平成元年以降）



【別表 10】 投票法毎の発売金の構成比 (%) の推移（平成元年以降）

	単勝	複勝	枠連	馬連	ワイド	馬単	3連複	3連単	WIN5
平成元年	2.8	2.2	94.9	-	-	-	-	-	
2年	2.8	2.2	95.0	-	-	-	-	-	
3年	2.9	2.3	81.3	13.5	-	-	-	-	
4年	2.7	2.3	35.4	59.6	-	-	-	-	
5年	2.8	2.5	26.6	68.1	-	-	-	-	
6年	2.7	2.6	22.9	71.8	-	-	-	-	
7年	2.6	2.6	19.9	74.9	-	-	-	-	
8年	2.6	2.6	17.8	77.0	-	-	-	-	
9年	2.8	2.8	16.4	78.0	-	-	-	-	
10年	3.1	2.9	15.1	78.9	-	-	-	-	
11年	3.1	3.0	12.9	79.3	1.7	-	-	-	
12年	3.0	2.4	10.9	70.5	13.2	-	-	-	
13年	3.1	2.4	9.9	70.4	14.2	-	-	-	
14年	2.8	2.4	8.3	54.7	10.8	10.9	10.1	-	
15年	2.7	2.5	6.4	34.2	5.8	24.1	24.3	-	
16年	2.9	2.7	5.8	28.2	4.9	22.0	25.5	8.0	
17年	3.1	3.3	4.7	21.1	4.2	17.2	19.3	27.1	
18年	3.4	4.0	4.8	19.6	4.4	15.7	19.4	28.7	
19年	3.8	4.2	4.6	18.6	4.4	14.5	20.1	29.8	
20年	3.7	5.1	4.3	17.1	4.3	12.4	19.2	33.9	
21年	3.9	5.9	4.0	15.6	4.5	10.4	18.0	37.7	
22年	4.2	6.4	3.8	15.1	4.8	9.8	18.7	37.3	
23年	4.5	7.2	3.5	14.3	5.1	9.1	18.1	36.2	2.0

【別表 11】 馬主・調教師・騎手・調教助手・厩務員数の推移（平成元年以降）



◎ 特別振興事業について

① 競馬振興事業（平成 23 年度）

【JRA 直接実施事業】

事業名	事業内容	実施額
1. 競馬場への来場誘引促進事業	競馬場が所在地周辺一帯の中で際立ったレジャー施設として認知されるための催事を実施する。	千円 142,265
2. 競馬理解醸成促進事業 （メディア活用型）	競馬への理解を醸成するために、テレビ・ラジオ・新聞を通して競馬にまつわる様々な情報提供を行う。	987,240
（催事型）	催事やサイト運営・ノベルティ配布等を通じた総合的理解醸成を実施する。	207,235
3. 馬事紹介普及推進事業	馬を使用した催事を通じ、馬の魅力を起点として、競馬・馬事の普及推進を行う。	55,786
4. 地方競馬競走発売のための電話投票システムの開発	地方競馬との連携協調のもと実施する地方競走発売のための本会電話投票システムの拡充を行う。	700,000
5. 国際競馬振興事業	国際競馬振興の一環として、国際競馬シリーズ及び競馬統括機関の関連業務にかかる経費の負担を行う。	20,269
6. 外国人競馬参加機会向上推進事業	観光客や在邦している外国人に対して、我が国の競馬への参加機会拡大を推進する。	23,849
合計		2,136,644

【助成金交付事業】

事業名	事業実施主体	事業内容	交付決定額
1. 北九州における競馬情報提供体制整備事業	(財)全国競馬・畜産振興会及び佐賀県競馬組合	北九州における競馬振興を図るため、中央競馬と佐賀競馬の共同広報を実施する。	千円 20,000
2. 軽種馬生産地情報収集案内提供事業	(社)日本軽種馬協会	競馬への理解を深め、競馬の長期的・安定的発展を図るため、軽種馬生産地に関する情報収集・案内を行う。	40,000
3. 競走馬マイクロチップ普及定着事業	(財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	マイクロチップの埋込費用を補助し、マイクロチップ信号を通じてデータベースにアクセスできるシステムの改善を行う。	20,000

4. 繁殖牝馬予防接種推進事業	(社)日本軽種馬協会	馬鼻肺炎ワクチン接種に対する一部補助を通じ、防疫対策を推進する。	68,000
5. 国際馬術基盤強化推進支援事業	(社)日本馬術連盟	我が国の馬術競技力を向上させるため、オリンピック等への参加資格獲得に資する競技会を開催し、日本代表選手団を派遣する。	31,000
6. 海外への日本競馬情報発信事業	(財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	中央競馬のG I 競走の映像を海外に配信するとともに、Web上において日本の競馬に関する情報を発信する。	80,000
7. 競馬技術交流促進事業	(財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	中国競馬事情の調査や、中国競馬発展のための事業を実施する。	24,000
合 計			283,000

(注) 上記のうち、「北九州における競馬情報提供体制整備事業」「軽種馬生産地情報収集案内提供事業」「競走馬マイクロチップ普及定着事業」については、(財)全国競馬・畜産振興会を通じて実施。

② 畜産振興事業（平成 23 年度）

事業名	事業実施主体	事業内容	交付決定額
畜産経営技術指導事業 1. 馬人工授精普及定着化事業	(社) 日本馬事協会	乗用馬等における人工授精の生産現場への普及・定着を図るため、優良種雄馬の凍結精液の製造・流通体制の整備及び生産現場への巡回指導等を行う。	千円 12,450
2. 牛受胎率向上特別対策事業	(社) 日本家畜人工授精師協会	人工授精及び受精卵移植による牛受胎率の向上を図るため、家畜栄養管理が人工授精、受精卵移植の牛受胎率へ及ぼす影響の解析及び家畜人工授精師への牛受胎率向上に有効な家畜栄養管理指導技術の普及を行う。	8,662
3. 地鶏銘柄鶏生産振興推進事業	(社) 日本食鳥協会	地鶏銘柄鶏による養鶏産業の振興を図るため、地鶏銘柄鶏の生産・流通・販売並びに、養鶏の育種改良の推進を行う。	10,774
4. 種鶏安定供給対策事業	(社) 日本種鶏孵卵協会	養鶏経営に対する種鶏の安定供給を図るため、種鶏場及びふ卵場における高病原性鳥インフルエンザ防疫対策、素ひなの生産見込み等の公表並びに初生ひなの雌雄鑑別技術の維持向上を行う。	9,621
5. ダチョウ自給粗飼料利用体系確立推進事業	日本オーストリッチ事業協同組合	ダチョウ生産における自給粗飼料の利用推進を図るため、地域特性に応じた自給粗飼料資源の探索及び当該自給粗飼料資源の利用体系の普及を行う。	10,818
6. アニマルウェルフェアに対応した飼養管理技術確立事業	(社) 畜産技術協会 国立大学法人東北大学 国立大学法人北海道大学 国立大学法人信州大学 学校法人麻布獣医学園麻布大学	アニマルウェルフェアに対応した家畜飼養管理技術を確立するため、各畜種における生産性に影響を与えないアニマルウェルフェアに対応した飼養管理技術の確立及び当該飼養管理技術の普及啓発を行う。	23,820
7. 資源循環型畜産技術開発・普及促進事業	(社) 日本草地畜産種子協会	環境負荷軽減に資する資源循環型畜産の推進を図るため、肉用牛・搾乳牛に関する放牧技術の確立、資源循環型自給飼料生産の推進を行う。	82,364

8. 被災地粗飼料生産利用 緊急対策事業	(社)日本草地畜産種子 協会	東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故の影響を受けた畜産経営体への粗飼料の確保及び円滑な供給に資するため、震災等に伴い利用できなくなった粗飼料に替わる粗飼料の供給の推進、土壌、飼料作物及びこれらに起因するものの放射性物質濃度のモニタリング結果等情報提供、粗飼料の円滑な供給及び粗飼料の前倒し輸入の促進並びに代替粗飼料の購入代金の支払い猶予のために借入れた資金に係る利子及び保証料の助成を行う。	513,230
9. 良質粗飼料広域供給・ 流通緊急対策事業	(社)宮城県農業公社	東日本大震災被災地における自給粗飼料の確保及び円滑な供給を図るため、稲発酵粗飼料等の自給粗飼料の増産及び被災地への供給体制の整備を行う。	23,831
10. 民間グループ被災畜産 農家救援活動事業	畜産経営支援協議会 (財)日本食肉消費総 合センター 全国食肉事業共同組合 連合会	東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故の畜産経営体の復興支援及び被災地の畜産・畜産物に関する理解醸成を図るため、被災農家への支援、家畜・畜産物に係る放射線に関する正しい知識の普及及び被災地の畜産に係る理解醸成を図る。	165,215
11. 放射性物質家畜影響調 査事業	国立大学法人東京大 学	福島第一原子力発電所の事故に伴う家畜・畜産物に係る風評被害の防止を図るため、低濃度の放射性物質の被ばくを受けた家畜及びその後代について、家畜繁殖学、生化学、動物行動学等の面からの調査結果を明らかにし、当該家畜に対する理解醸成を図る。	16,646
12. 畜産物に対する放射性 物質の安全に関する調査事 業	国立大学法人東京大 学	福島第一原子力発電所の事故により、被害を受けた家畜・畜産物の安全に関する消費者の理解醸成を促進するため、消費者等へのリスクコミュニケーションツールの確立を行う。	16,635
13. 乗馬等を通じた被災地 支援（馬とのふれあい）事 業	(公社)全国乗馬倶楽 部振興協会	馬への理解醸成を図るため、東日本大震災で被災した学童等を対象とした馬を活用したふれあい活動等を行う。	11,092
小 計			905,158
肉用牛生産合理化事業 多様な牛肉生産体制確立支 援調査研究事業	(社)全国肉用牛振興 基金協会	経済形質等に優れた肉用牛系統の再構築を推進するため、牛肉の美味しさ評価基準の標準化及び当該評価を基に地域に賦存する経済形質に優れた種雄牛系統の再構築を行う。	95,779
小 計			95,779
生乳生産合理化事業 1. 優良乳用後継牛生産シス テム高度化事業	乳用牛群検定全国協議 会	乳用後継牛生産の適正化を図るため、飼養環境を踏まえ遺伝能力的に期待できる次世代牛群を予測するシステムの構築及び当該予測結果を生産者に提供する。	43,003

2. 乳用牛の飼養管理技術改善システム開発事業	乳用牛群検定全国協議会	乳用牛の疾病を早期に発見し、損耗防止を図るため、乳用牛疾病予防診断システムを開発する。	73,083
小 計			116,086
家畜衛生向上事業 1. 口蹄疫防除緊急支援体制整備事業	畜産経営支援協議会	口蹄疫等の家畜伝染病発生時に防疫措置に従事する民間獣医師等の安全性及び快適性を確保するため、国等で備蓄しない資材・機材の備蓄を行い、緊急時に備える。	56,799
2. 口蹄疫等伝染病防疫システム構築事業	食肉生産技術研究組合	口蹄疫等の家畜伝染病発生時等における蔓延防止対策を促進するため、当該伝染病患畜等の迅速な殺処分を行うための移動式殺処分装置の開発及び食肉処理施設における口蹄疫等の侵入防止等を図る。	171,502
3. 民間産業動物獣医師防疫支援体制確立対策事業	(社)中央畜産会	口蹄疫等の悪性伝染病の防疫時に必要な実践的な知識・技術を備えた民間産業動物獣医師の育成を促進するため、民間獣医師の海外悪性伝染病に関する防疫支援技術の向上及び、新規獣医師の産業動物に対する基礎的臨床技術の習得を行う。	122,680
4. 防疫用ワクチン備蓄システム高度化推進事業	(社)日本動物用医薬品協会	家畜伝染性疾病に係る防疫用ワクチンの備蓄及び保管システムの高度化を図るため、ワクチン原液の長期保存システムを確立する。	46,682
小 計			397,663
畜産技術研究開発事業 1. 種雄牛側からの生産効率向上技術開発事業	(社)家畜改良事業団	種雄牛側の要因解決による受胎率向上及び遺伝性疾患原因遺伝子を保因しない優良後継牛の造成を図るため、種雄牛精子の受精能力の診断方法等の確立及び牛精子の高性能希釈液の開発を行うとともに、遺伝性疾患遺伝子の保因牛の公表を行う。	94,488
2. 牛有用ゲノム解析手法確立事業	(社)畜産技術協会	酪農及び肉用牛生産における生産性の向上を図るため、生産性の向上を阻害する遺伝的要因を明らかにするためのゲノム解析手法を確立する。	60,588
小 計			155,076
畜産関連公害防止・自然環境保全事業 畜産排水中の硝酸性窒素低減技術開発普及事業	(財)畜産環境整備機構	畜舎排水中の硝酸性窒素等の低減を図るため、適正な污水处理施設管理のマニュアル作成等を行う。	79,953
小 計			79,953
合 計			1,749,715

(注) 上記の各事業は、(財)全国競馬・畜産振興会を通じて実施。

事業名	事業実施主体	事業内容	実績額
畜産振興事業附帯事業	本会	学識経験者からなる審査委員会を設置し、新規事業を選定し、学識経験者からなる評価委員会を設置し、事業評価を行う。また、特定法人において助成金交付業務を行う。	千円 24,381
小計			24,381
総計			1,774,096

JRA賞 受賞馬及び受賞者

1. 競走馬部門

	受賞馬	(馬主)	(厩舎)
年度代表馬	オルフェーヴル	(有)サンデーレーシング	栗東・池江 泰寿 厩舎
最優秀2歳牝馬	アルフレード	(有)キャロットファーム	美浦・手塚 貴久 厩舎
最優秀2歳牝馬	ジョワドヴィーヴル	(有)サンデーレーシング	栗東・松田 博資 厩舎
最優秀3歳牝馬	オルフェーヴル	(有)サンデーレーシング	栗東・池江 泰寿 厩舎
最優秀3歳牝馬	アヴェンチュラ	(有)キャロットファーム	栗東・角居 勝彦 厩舎
最優秀4歳以上牝馬	ヴィクトワールピサ	市川 義美 氏	栗東・角居 勝彦 厩舎
最優秀4歳以上牝馬	ブエナビスタ	(有)サンデーレーシング	栗東・松田 博資 厩舎
最優秀短距離馬	カレンチャン	鈴木 隆司 氏	栗東・安田 隆行 厩舎
最優秀ダートホース	トランセンド	前田 幸治 氏	栗東・安田 隆行 厩舎
最優秀障害馬	マジェスティバイオ	バイオ(株)	美浦・田中 剛 厩舎

2. 調教師・騎手部門

①調教師部門

最多勝利調教師	角居 勝彦 (栗東)
最高勝率調教師	堀 宣行 (美浦)
最多賞金獲得調教師	池江 泰寿 (栗東)
優秀技術調教師	角居 勝彦 (栗東)

②騎手部門

最多勝利騎手	岩田 康誠 (栗東)
最高勝率騎手	福永 祐一 (栗東)
最多賞金獲得騎手	岩田 康誠 (栗東)
最多勝利障害騎手	該当者なし
最多勝利新人騎手	該当者なし